

席ニ就カシム若シ
被告事件公安ヲ害
シ又ハ根藪ニ涉リ
風俗ヲ害スルノ恐
アル中ハ裁判所ニ
於テ檢察官ノ請求
ニ因リ又ハ職權ヲ
以テ其訊問及ヒ辯
論ノ傍聽ヲ禁スル
ニハ左ノ言渡ヲ為

何區長宛

○士族平民籍へ編入御願

住所士族

氏名

長二男
女弟妹

氏名
何年何ヶ月

右ノ者何々職工
商業熟練仕候ニ付今般
何地ニ於テ開業仕度依
全戸除籍ノ
上何地何町へ平民籍編入仕度此段

奉願上候也

年月日

右某父兄氏名印

分籍人氏名印

戸長氏名印

何府長官宛

シ訟廷ノ入口ニハ
禁傍聽ノ牌ヲ掲ケ
シム
治罪法第百六
十三条同第百
六十四
条

傍聽ヲ禁ズル言渡書

言渡書

住所身分職業氏名カ被告タル何々事件ハ公安又ハ風俗ヲ害スルノ
恐アルニ付檢事ノ意見ヲ聽キ(又ハ職權ヲ以テ)治罪法第百六十四

條ニ依リ訊問及ヒ辨論ノ傍聴ヲ禁スルモノ也

明治何年何月 日

某裁判所

判事

氏名印

書記

氏名印

傍聴ヲ禁スル牌式



第三百三十六條 裁

判所長ハ公判作數
録ニ登記シタル記
訟ノ順序ニ依リ公
判ニ付ス可キ為メ
之ヲ各判事ニ配當
シ書記ヲシテ左ノ
如ク其作數ヲ公判
班配表ニ照ラシテ
順次公判ニ付ス

○家出人ノ養子離縁御願

住所 氏名

男弟 氏名

姉妹 氏名

何年何ヶ月

右誰儀何年月何區何村何番地何某
方へ結婚為致有之候処右養父某何
年月日家出仕今ニ行衛相分不申最
早何ヶ月相立候間今般離別仕度段
奉願上候也

新撰書式文抄

但シ判事差支アル
片ハ判事補ラシテ
其職務ヲ行ハシム
(治罪法第五十七條
第一項同條二百六
十二條第一
項)

年月日

右誰父兄弟
氏名印
親類氏名印
戸長氏名印

何區長宛

明治何年何月

班數表
之式

公判班數表

某裁判所

日	何月何
	〇〇〇判事 〇〇判事 〇〇判事
	氏 氏 氏

此ノ班數ハ配付件數ノ平等ヲ照スモノトス以下之ニ概フ

新撰書式文抄

日何月何	日何月何
〇〇書記氏	〇〇〇判事氏
〇〇書記氏	〇〇〇判事氏
〇書記氏	〇〇〇判事補氏

第三百三十七條 判

事ハ被告事件急速
ヲ要シ且其事件豫
審ヲ經サル輕罪ナ
レバ公判ニ取掛ル
前治罪法第三百廿
四條ノ規則ニ依リ
檢證処分ヲ為ス
アリ但其手續ハ第
五章ニ記シタル豫

○後家再縁付御願

右ノ者何年何月何日何郡何郷何地番氏
名方へ嫁付居候処何年何月夫某病
死仕候ニ付其節御願濟ニテ其長男
跡相續罷在候然ニ其母誰ハ未夕並

住所氏名
亡氏名妻
氏名何姉妹
何年何ヶ月

審判事ノ檢證処分
ニ同シ

(治罪法第三
百五十一條)

本條ノ場合ニ於テ
判事補カ判事ノ職
務ヲ行フトキ亦同
シ以下之ニ依リテ

第百三十八條 公
許ヲ受理シタル片
ハ書記呼出録ニ喚

年ノ者故今般媒人有之何區何柯何
番地氏名へ配偶ノ事相談相整本人
及親類一同協議ノ上再縁付為致度
此段御許容被成下度奉願上候也

亡某父氏名印
兄伯父氏名印
亡某妻氏名印
親類氏名印
戸長氏名印

何區長宛

○懲役人及流罪人囚獄人養子及妻離縁願

住所身分

幾男弟
女姉妹

誰
何年何月

徵人ノ氏名等ヲ記
載シ之ニ認印シ高
木判事ノ認印ヲ受
ケ而テ治罪法第三
百二十二條第三百
二十三條第三百四
十九條第三百五十
條ノ規則ニ依リ第
三十九條ノ呼出狀
ヲ以テ之ヲ呼出ス
(治罪法第三
百四十八條)

第百三十九條 判

右誰何年月日何區何柯何番地何某
方へ結婚為致有之候処右養父某何
年月日何々犯罪ノ科ニヨリ何年何

車ハ公廷ニ於テ諸般ノ取締ノ為メ相當ノ處置ヲ為ス若シ稱讚誹謗其他辨論ヲ妨礙スル者アル片ハ之ヲ制止シ又退廷セシム

(治罪法第二 百七十二条)

第四百十條 被告人辨護人ヲ用フル片ハ其辨護人ノ住所身分氏名及ヒ該

月ヨリ何年何月迄何年間ノ処刑中ニ候處云々ノ儀有之不得止事今般離縁仕度此段奉願上候也

年月日

誰某父兄弟 氏名印

親類 氏名印

戸長 氏名印

何郡長宛

○解縁願

裁判所々屬ノ代言人ナルヲ記載シタル左ノ如キ届書ヲ書記局ニ差出サシム若シ代言人ニ非サル者ヲ用フル片ハ其願書ニ通テ出サシノ判事ハ書記ヲシテ許否ノ旨ヲ書キ其一通ヲ被告人ニ下附セシム

(治罪法第二 百六十六条)

私養父或ハ子何ノ誰義何々ノ故ヲ以退身願之通御聞濟相成候ニ付都合ヲ以實家何ノ誰方江復籍致度旨申立双方熟談相整則連印ヲ以奉願上候也

年月日

住所身分

戸主 氏名印

養父或ハ養子 氏名印

若シ被告人監獄ニ在ル片ハ監獄長ヲ經テ該書面ヲ差出サシム
治罪法第三
百十一條

何郡長宛

同人父兄 氏名印

辯護人ヲ用ルノ届書式

届書

自分儀此度何々ノ事件ニ付公訴ヲ受ケタルニ依リ當御裁判所々々
屬代言人住所身分職業氏名ヲ以テ辯護人ト相定メ候間此段御届
申上候也

明治何年何月日

住所身分職業 何某印

某裁判所

判事氏名殿

願書ノ式

願書

自分儀此度何々ノ事件ニ付公訴ヲ受ケ候ニ付テハ何府縣何國何
區郡何町村番地職業氏名ヲ以テ辯護人ト相定メ候間此段御允
許被成下度様奉願候也

明治何年月日

住所身分職業 氏名印

某裁判所

判事氏名殿

右願書ハ二通ヲ出サシメ左ノ朱書ヲ為シ一通ハ掛判事ノ檢印ヲ
捺シ其一件書類へ綴リ置キ一通ハ右判事ノ官印ヲ捺シ願人へ下付
ス

朱書ノ式

願之趣允許スル着也

明治何年何月日

判事
某之印

願之越前聽居候條更ニ他人ヲ改撰シ可願出着也

明治何年何月日

判事
某之印

第四百一十一條

被告人ハ公廷ニ於テ被
身體ノ拘束ヲ受ル
トナレト虽暴行
逃亡ヲ豫防スル為
ノ字卒一名又ハ二
名ヲ付置クコトアリ

○同名差支付改名御願

何郡何村ニ私ト苗字名前同ジキ者
有之差支候ニ付無餘儀何々ト改名
仕度此段奉願上候也

禁錮以上ノ刑ニ該
ル可キ被告人疾病
ナクシテ出廷ヲ肯
セザルハ公カテ
以テ之ヲ引致スル
コトアリ

第四百一十二條

訟關係人呼出ニ應
ジ出廷シタルハ
在監ノ被告人ヲ除
クノ外惣テ着到届
ヲ書記局ニ差出サ

年月日 住所身分

何郡長宛 戸長 氏名印

○縁組送籍御願

住所身分

氏名

右ハ此度媒人熱義相成何
郡何村何番地氏名長男誰ハ為嫁候

シム書記ハ直ニ之
ヲ判車ニ通報ス
証人ハ着到届ノ外
ニ其出状ヲ差出
サシノ若シ之ヲ遺
失シタル片ハ其人
違ナキコトヲ證明セ
シム
(治罪法第百八十七
条第百七十八条)
 第百四十三條
 車ハ檢車及ヒ書記
ト共ニ公廷ニ就キ
左ノ順序ニ從ヒ被

間送籍被成下度此段奉願候也
(年月日其他前二同シ)

○養女送籍御願

住所身分

氏名
何年何月何日

右ノ者今般何縣何區何町何村何番地江引
縁組相整候間送籍被成下度此段奉

願候也

(前二同シ)

○送籍御下ケ渡願

住所身分

氏名

右者此度何縣何區何町何番地江引
越居住願濟ニ付送籍之義御下渡相
成度此段奉願候也

○送籍證御證印願

住所身分

氏名

告人其他ノ訴訟關
係人ノ訊問及ヒ辨
論ヲ行フ
一判車ハ被告人ノ
氏名年齢身分職業
住所及ヒ出生ノ地
ヲ問フ若シ被告人
數名ナレバ判車共
意見ヲ述ヘ且檢車
其他訴訟關係人ノ
意見ヲ聽キ訊問ノ
順序ヲテ而テ後
之ヲ訊問ス但事實

以日ノ為ノ必要ナ
リトスル片ハ職權
ヲ以テ其順序ヲ變
更スルコトアリ

(治罪法第百零九條
九十九條第百五十二條)

二檢事ハ被告事件
ヲ陳述ス

(治罪法第百零三
百五十二條)

三民事原告人ハ被
害事件ヲ證明スベ
キコトヲ陳ス

四書記ヲシテ調書

右今度何府何郡何村何某義宗家候

右何府何郡何村何番地氏名方へ付録
轉仕度候ニ付別紙送籍御證印被成
下度此段奉願候也

年月日

右町戸長

氏名印

○同共二

住所身分

氏名
家族

又ハ申立書ヲ明瞭
セシム
五檢事ノ請求ニ因
リ呼出シタル證人
ヲ一人ツ、公廷ニ
呼込マシメ

其氏名年齢職業
住所及ヒ治罪法

第百八十一條ニ

記載シタル者ナ
リヤ否ヲ問フ

(治罪法第百七十九條第百
八十七條第百八十九條第

又本人死去致絶家候ニ付分家之事
故相續仕度由願出依之委曲相調候
處相違無御坐候ニ付別紙之通送籍
證差出候間御證印被成下度此段奉
願候也

○同共三

(住所身分氏名年齢其他前二同シ)

右之者及老衰其上發病業体難營依

三百五十二條

呼出シタル證人
二名以上ナルハ
檢軍其他訴訟
關係人ヨリ差出
シタル氏名目録
ノ順序ニ從ヒ之
ヲ訊問ス但證人
ヲ呼出シタル者
ノ意見ヲ聽キ其
順序ヲ變更スル
コトアリ

(治罪法第ニ)
百九十九條

之何府何郡何村何番地何某事實子
之義ニ付引取介抱致度由願出候ニ
付聞届別紙之通送籍證差出候間御
證印被成下度此段奉願候也
(年月日其他前二同)

○送籍之証

住所身分
氏名
出生年月日
何年何ヶ月
何某幾男奉職ノ者(其家ヲ)
此處ニ記スベシ
妻
た
れ

治罪法第ニ
百八十七條

六前項ノ證人ニ愛
憎畏懼ノ心ナク正
實ニ陳述ヲ為スヘ
キ旨宣誓ヲ為ス
ノ其宣誓書ヲ讀聞
カセ署名捺印セシ
メタル上ニテ之ガ
陳述ヲ聽キ其陳述
ハ書記ヲノ之ヲ公
判始末書ニ録取セ
シメ判事書記之ニ
署名捺印ス

右之者從來當村居住罷在候処令般
便宜ニヨリ其村何番地へ轉居致候
間當町内除籍候ニ付自令其村へ加
籍可有之依テ如件
何年何ヶ月
何年何ヶ月
同
誰
何年何ヶ月
氏神及寺
長男
右村 戸長
氏名印

年月日
右村 戸長
氏名印

何郡何村戸長役場御中

七民事原告人ノ請
求ニ因リ呼出シタ
ル証人ヲ訊問ス其
手續キハ本條第五
第六條ノ項ニ從フ
（治罪法第百
十八條）
八被告人
民事
ニ因
證人
ヲ訊問ス
（同條第
三項）
九職權ヲ以テ呼出

○同請取之事

何村 氏名
家 族
右ハ從來其村居住ニ候處今般當村
何番地へ移住候ニ付送籍被差越正
ニ受取申候自今當町村籍へ編入可
致候依而如件

年月日

何村戸長

氏名印

何村 (宛前二向)

證人ヲ訊問

（第三條）
十新ニ鑑定人ヲ命
スルニハ命令書ヲ
以テ之ヲ命シ鑑定
人ヨリハ正實ニ鑑
定ス可キノ宜誓ヲ
為サシム
（治罪法第百五十七條第
百九十三條第百八十九條第百
九十四條ヨリ第百
九十九條ニ至ル）
十一證據物件ヲ被

○帰俗御願

何郡何村何番地
何區何村何番地
住職 氏名
弟子 氏名
右私義從來何々ノ持病有之僧道難
務候ニ付所生別紙ノ親族方へ復籍
蓄髮仕商業相營申度此段奉願上候
以上

告人ニ示レ辨解ヲ為サシム

(治罪法第三百五十二條)

十二被告人(辨獲人アル者ハ辨獲人及ヒ民事擔當人トシテ答辨ヲ為シシム十三檢事ハ法律ヲ適用ニ付意見ヲ陳述ス

(治罪法第三百五十三條)

十四民事原告人ハ

年月日

何郡長宛

右氏名印
右某師匠氏名印
戸長氏名印

○其二

何郡何町何番地

何宗何寺住職

何年何月何日

一私義從來當寺住職罷在候処元來

要備ニ付意見ヲ陳述ス(同條)
十五被告人(辨獲人アル者ハ辨獲人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辨ヲ為スヲアリ

第百四十三條(同條) 檢事

其他訴訟關係人ハ送ヒニ辨論ヲ為スヲアリ但辨論ノ最終ニハ必ず被告人又ハ辨獲人ヲシテ

貧院ニテ何分活路相立親候ニ付此度断然奮發仕商業相營申度依之歸俗奉願候也

右何寺住所

年月日

何郡長宛

右氏名印
戸長氏名印

○復籍還俗御願

一私何郡何町何々寺住職ニ罷在候

新撰書式

發言セシム

(治罪法第
三百條)

檢事ハ判事ニ告ゲ
被告人及ビ証人ヲ
訊問シ又訴訟關係
人ハ辨論ニ必要ナ
ル條件ヲ分明ナラ
シムル為メ証人ノ
訊問ヲ判事ニ求ム
ルヲアリ

(治罪法第
百九十一條)

第四百四十四條 檢事

所同寺事故有之何年月日法類何郡
何村何々寺へ合併之事御聞濟ニ相
成候ニ付テハ所生何國何郡何村何
番地族籍何ノ某ハ私父伯叔父ニ候
間是へ復籍歸俗仕度此段奉願上候
也

年月日

寺号

氏名印

目

氏名印

其他訴訟關係人ノ
陳述ハ他ヨリ妨礙
スルコトヲ禁ズ若シ
被告人暴行又ハ喧
嘩ヲ為シ辯論ヲ妨
礙スルハ判事ヨ
リ再度告戒ヲ為シ
尚ホ從ハザルハ
檢事ノ請求ニ因リ
又ハ職權ヲ以テ被
告人ヲ退廷セシメ
若クハ勾留スルコ
トアリ

何郡長宛

親族之稱

氏名印

○合寺御願

住所

何宗何々寺

氏名

一私住職仕居候寺院ハ元來貧寺且
壇家僅少ニシテ連モ難立行候間近
隣何村法類同宗何々寺へ合併致シ

行長書式

百廿六

被告人ヲ退廷セシ
ノ又ハ勾留シタル
場合ニ於テハ對審
トシテ引續キ辨論
及ヒ裁判言渡ヲ為
ス一アリ若シ辨論
ニ日ニ涉ルルハ更
ニ被告人ヲ出廷セ
シム

(治罪法第二百條第三
百六十七條第一項第
二項
三項)

第四百四十五條 被告

寺敷ハ其寺院住職何某ハ相托シ候
様壇家總代ヨリ示談相整候間此段
御許可被成下度奉願上候也

年月日

本寺住職

氏名印

住所何寺住職

氏名印

法類

氏名印

住所身分

氏名印

何寺壇家

總代

氏名印

戸長

氏名印

(宛前二回)

人精神錯亂又ハ疾
病ニ因リ出廷スル
一能ハザルルハ痊
癒ニ至ルマテ辨論
ヲ停止ス其辨論ニ
取掛リタル後精神
錯亂シタルハ其
痊愈ノ後新ニ辨論
ヲ為シ其他ノ疾病
ニ罹ルルハ痊愈ノ
後停止後ノ手續キ
ヲ為ス但五日間辨
論ヲ停止シ又ハ檢

○寺院住職進退御願

一私儀病氣ニテ寺役難相勤候ニ付
隱居仕何又ハ事故ニ付 跡住職ノ儀ハ
弟子或ハ新發意又ハ長 一被仰付度
男誰何寺住職何ノ誰 一被仰付度
依テ辞令書相添へ連印ヲ以テ此段
奉願上候也

年月日

住所寺号住職

願人 氏名印

同法類 氏名印

車其他訴訟關係人ノ請求アリタルハ新ニ辯論ヲ為ス若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付既ニ辯論ヲ終リタル片ハ其痊愈ノ後吏ニ取調ヲ為スナク裁判官渡ヲ為ス

(治罪法第二百六十八條)

第四百十六條 被告人辯論者啞者又ハ國

第三章

土地ニ関スル願届

○家督讓受 山林、耕畑、地券狀書

改御願

何郡區何町村内 地券何通
何番地字何々

右何寺号

檀頭 氏名 印

戸長 氏名 印

何縣長官宛

語ニ通セザル片ハ治罪法第百五十六條第百五十七條ノ規則ニ從フ

(治罪法第二百九十八條)

第四百十七條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ公判ノ日時ニ出廷セス

ト虽ル豫審終結ノ言渡書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達シタルノ証アルニ非サル

一 山林、耕畑地 何段何畝歩

此地價金何百何拾円也

右所有主氏名ナル者去ル何年何月

日死去仕ニ付其際願濟ニテ相續罷

在候間地券裏面名前書入御檢印被

成下度此改奉願也

年月日

住所身分

氏名 印

戸長 氏名 印

新撰書式文略

百八十八

レバ 閣席裁判ヲ為

サス

(治罪法第二
百六十九條)

第四百十八條

席裁判言渡書又ハ

出狀ヲ本人ニ送

達スルヲ能ハザル

場合ニハ裁判所ニ

テ猶豫ノ期限ヲ定

メ其期限內ニ被告

人出廷セサルハ

閣席裁判ヲ為スベ

キヲ記シタル左

何府長官宛

○同耕地券狀書換御願

何府何區何町

一耕地或ハ何反何畝步 券狀宣通

此地價金何百何拾兩

一私實父死去仕候ニ付 去本月何日願

濟家督相續罷在候依テ別紙地券狀

私名前ニ御書換被成下度此段奉願

ノ告知書ヲ親屬若

クハ戸長ニ送達ス

(治罪法第二
百六十九條後項)

禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ豫審終結ノ言渡書又ハ呼出狀

ヲ送達スルヲ能ハザル場合閣席裁判ヲ為ス可キノ告知ヲ為ス書式

告知書

住所身分職業氏名ノ被告タル何々事件本人所在不分明又ハ何々ノ

故ヲ以テ呼出狀又ハ豫審終結ノ言渡書ヲ送達スル能ハス就テハ明

治何年何月何日迄公判猶豫候條本人期限內ニ出廷可致若シ其期限

ヲ過キ猶出庭セザルニ於テハ閣席裁判ニ及ブ可シ此旨告知スル者

明治何年何月日

某裁判所

第四百九十九條 罰

金ノ刑ニ該ル可キ
被告人若クハ被告
代人又ハ前條ニ從
ヒ闕席裁判ヲ為ス
ト得ヘキ被告人
其呼出ノ日時ニ出
廷セザル片ハ檢事
及ヒ民事原告人ノ
請求スル所民事擔
當人ノ陳述スル所

判事 氏名
書記 氏名

○地所開墾願

一私義今般同管下某郡何村某山別
紙圖面ノ通開墾或ハ開墾開拓茶園又ハ
致允地稅ハ稅金地租ノ義ハ向何年
ヨリ何町步ニ付金何程宛上納可仕
候間御聞届被成下度別紙圖面相添

ヲ聽キ闕席裁判ヲ
為ス

第五百十條 民事

擔當人又ハ其代人
出廷セサル片ハ檢
事及ヒ民事原告人
ノ請求被告ノ陳
述ヲ聽キ闕席裁判
ヲ為ス民事原告人
又ハ其代日出廷セ
サル片ハ檢事ノ請
求及ヒ被告人民事

此段奉願候也

住所身分

氏名印

前書之通願出候ニ付奥印仕候也

戶長 氏名印

縣長官宛

書ノ旨令ヲ請フモノハ罪紙
前五行ヲアケ書シ三通トス二
通ハ府縣或ハ郡區一通ハ戸長
役場トス其他官省ハモ之ニ同
シ後皆之ニ倣ヘ○別紙前圖之レヲ略

擔當人ノ陳述ヲ聽
キ關席裁判ヲ為ス

(治罪法第三百五十五
條第三百三十一條)

第百五十一條 關

席シタル被告人ニ
付テハ辨護人ヲ用
フルヲ許サス但
其親屬故旧ヨリ被
告人ノ出廷スル
能ハサル事由ヲ證
明シ其事由正當ナ
ル片ハ檢事ノ意見

○荒地開墾願

一私儀今般何郡村ノ内字何々ト稱
スル荒蕪ノ地ヲ何街道迄長何間幅
何間此總計幾坪開墾仕畑地ニ致シ
度尤モ此儀ニ付テハ莫大ノ入費モ
年来ノ霖雨ニテ河水屢々漲リ潰損
一及部ニ付何程ノ地租上納仕度候
依テ別紙圖面相添此段奉願候也

ヲ聽キ裁判ヲ延期
スルヲアリ

(治罪法第三
百七十條)

第百五十二條 被

告人中ノ一人又ハ
數人出廷セズト虽
片出廷シタル者ニ
付テハ通常ノ手續
キニ從ヒ對審裁判
ヲ為ス

(治罪法第二
百七十一條)

第百五十三條 出

(年月其他前ニ同シ)

○荒地畝下願

一田反別何反何畝步

此地價何程

此百分ノ二分五厘何程

何郡何町

右砂入或ハ押堀或ハ砂入皆無
持主 氏名 印

(數筆ノ地所免稅額スルト片ハ一筆カギリ
取調帳ヲ別ニ製表スベシ)

右ハ何年何月何日洪水ノ節字何川

席裁判言渡書ハ檢
車其他訴詔關係人
ノ請求ニ因リ第五
十三條ノ式ヲ以テ
之ヲ關席シタル者
又ハ其住所ニ送達
ス

治罪法第三百五十五條
第三百二十二條一項
第三百二十四條 關
席裁判ヲ受ケタル
者故障ヲ為スハ本
人又ハ其住所ニ裁

判言渡書ノ送達ア
アリタルヨリ三日
内ナリトス但禁錮
ノ刑ニ處セラレタ
ル被告人ハ左ノ區
別ニ從ヒ故障ヲ為
スヲ得

治罪法第三百五十
五條第三百五十六
條第三百三十二條
第二項
一被告人本署ノ裁
判以前ニ豫メ裁判

堤坊破壊前ノ田畑欠崩或ハ石相成
候間免稅實地御見分ノ上御聞届相
成其節起返目途可申立旨被仰渡候
ニ付即右費用別紙ノ通御座候間
下年季何年御聞届被下度奉願上候
也
(年月其他前二同シ)

○水損地免稅ノ願

(前例二同シ)

右ハ去ル何月中何川出水災ノ節水
押相成難渋仕候間何卒實地御見分
ソ上地租御免除被成下度奉願上候
也
(年月日其他前二同シ)

○借區開坑願

住所身分

氏名

私義某年月某地ニ於テ試堀相願候
処何鑛發見致又ハ從來何礦ヲ
掘出スヘキ見込候ニ付

スベキ事件ノ申立
ヲ為シタルハ其
裁判言渡書ノ本人
又ハ其住所ニ送達
アリタルヨリ三日
内

(治罪法第三
百五十六條)

二裁判言渡書ヲ本
人ニ送達シタル片
又ハ本人ニ送達セ
スト虽モ其本人裁
判執行ニ因リ刑ノ

別紙圖面ノ場所ニ於テ借區開坑被
差許度此段奉願候以上

年月日 氏名 印
前書願出ノ通御聞届相成度候也

某府知事
氏名 印

○通洞願

内務卿宛
住所身分 氏名

言渡アリタルコトヲ
知タルノ証アルハ

ハ其言渡アリタル
コトヲ知リタルヨリ

三日内
三前二項ノ場合ヲ

除クノ外ハ刑ノ期
満免除ニ至ルマデ

第百五十五條 關
席裁判ニ付故障ヲ

為サントスル者ハ
前條ノ區別ニ從ヒ

其期限内ニ故障ノ

住所身分 氏名

一私儀 疎水運輸或通洞堀通洞

別紙圖面ノ其場所ニ有之候尤通洞

ノ地位ニ當リ候借區ノ主某ニ報知

仕置候右通洞堀方御聞届被下度奉

願候也
年月日 右 氏名 印

前書ノ通御聞届相成度候也

申立書ノ書記句ニ
差出サシム書記ハ
之ヲ裁判所長ニ差
出ス

(治罪法第三百三十二
條第三百五十五條)

第百五十六條 裁

判所長ハ故障ノ申
立書ヲ判事ニ付シ
其判事ハ左ノ如ク
故障ノ申立ヲ受理
ス可キヤ否ヲ判決
ス

○同其二

某縣令知事
氏名印

何郡何地田地水利不便ニ付數ヶ村
年々旱魃ニ困候然ル処何郡何地字
某地ヲ隔谷間常水涌出候得共山脉
相連リ流通不宣依之今般右村々合
議ノ上山服通洞常水相引申度候何
卒此段御聞届被成下度奉願候也

判決書ノ式

判決書

住所身分職業氏名ハ何々事件ニ付明治何年月日當裁判所ニ於テ
罰金何円ニ處スル旨ノ闕席裁判ヲ言渡サレタレ何々ニ付其裁
判ハ不服ナル旨故障ノ申立ヲ為スト虽凡氏名カ欠席裁判言渡書
ノ送達ヲ受ケタルハ明治何年月日ニミテ故障ノ申立書ヲ差出
シタルハ明治何年月日ナレバ其間何十日ヲ經過シタルヲ明白ナ
リトス依テ治罪法第三百卅二條ニ欠席裁判ヲ受ケタル者故障ヲ
為サントスル氏ハ言渡書ノ送達アリタルヨリ三日内ニ其申立書
ヲ書記局ニ差出ス可シトアルニ指クヲ以テ右故障ノ申立ハ受理
セサル者也

明治何年何月日

何裁判所

判事

氏名印

書記 氏名 印

○試堀願

住所身分

氏名

一私義某縣管下某地ニ於テ何礦ヲ
堀得可ク覺候故先試堀仕度候間御
聞届被成下度奉願候也

年月日

右 氏名 印

(以下前二回シ)

第五百十七條 故
障ノ申立ヲ受理ス
可キ者ト判決シタ
ルホハ書記ヨリ其
故障アリタル一及
ビ更ニ公判ニ付ス
可キ日時ヲ通知ス
ル為メ左ノ呼出狀
ヲ對手人ニ送達ス
但其送達ト出廷ト
ノ間少クモ二日ノ
猶豫ヲ與フ

對手人呼出狀ノ書式

呼出狀

住所身分職業氏名ノ被告タル何々事件ニ付明 何年月日父席裁
判言渡アリタル所被告人名ハ之ヲ不當ナリトシ故障申立ヲ受
テタルニ付當裁判所ニ於テ受理相成更ニ公判ニ及ヒ候條民事原
告人何某其他ニ於テハ来ル何月日時當裁判所ニ出廷可致者也
但代人差出ス儀ハ不苦候事

明治何年何月日

其裁判所

書記

氏名

印

第五百十八條

前日ニ報知書ヲ

故障申立人へ通知スル書式

報知書

書記ハ故障申立人ニ對シ公判ニ付スヘキ日時ヲ其
前日ニ報知書ヲ以テ報知スル一左ノ如シ(治罪法第三百三十三條
第三百五十五條)

住所身分職業氏名ヨリ住所身分職業氏名ノ被告タル何々事件ノ
心腹裁判言渡ニ對シ明治何年何月日ヲ以テ申立タル故障受理押
成り來ル何月何日時當裁判所ニ於テ更ニ公判ニ及ビ候條此旨氏
名ハ報知及ビ候也
明治何年何月日
其裁判所 書記 氏名 印

第百五十九條 故障ノ申立ヲ受理シ

ルルハ通常ノ手續キニ從ヒ更ニ裁判ヲ為ス但共裁判ニ欠席シタル者ハ故障ヲ為スコト許

○其二

住所身分 氏名
一何縣何郡何村何山
字何々 (但官地云々)

何礦

(但借區ハ字一テ所毎ニ
數ヲ所アラバ其合計ヲ七揚メシ)

右之場所ニ於テ何礦含有致シ候見
込ニ付試掘借致シ度地元江及示
候処差障無之所有地ナレバ地元
間御許可可相成候様仕度圖面相添
此段奉願上候也

年月日 願人 氏名 印

(但同盟アラバ連名連署スベシ)

第百六十條 公廷

ニ於テ輕罪違言
罪ヲ犯シタル者
ルルハ其身分ノ如
何ニ拘ハラズ之ヲ
取押ハ書記ヲシテ
其犯罪ノ事件及ビ
判事ノ處分ニ付
書ヲ作ラシメ檢事
ノ意見ヲ聽キ直チ
ニ終審ノ裁判ヲ言

前書出願之場所取調之上奥印仕候ニ
付御聞届相成度候也

區長 氏名印
戸長 氏名印

第百六十一條 公
是ニ於テ重罪ヲ犯
シタル者アルハ
其犯人及シテ證人ヲ
記問シ其調書ヲ作
リ檢事ノ意見ヲ聽
キ左ノ如ク豫審判
事ニ送付スルノ言

何縣長官宛
○堤防修復願
何郡何村何川
一字何々堤 凡長サ何十間

渡ヲ為ス (治罪法第百七十五條)

豫審判事ニ送付付スルノ言渡書式
言渡書

住所身分職業氏名ハ何年何月何日當裁判所公廷ニ於テ云々ノ所
為ニ及ビタルヲ以テ刑法第何條ニ記シタル何々ノ重罪ヲ犯シタ
ル者ト認ム依テ氏名及ビ証人何某ヲ訊問シ檢事ノ意見ヲ聽キ治
罪法第百七十五條ニ照ラシ通常ノ規則ニ從ヒ裁判スル為メ當
裁判所ノ豫審判事ニ送付スル者也
明治何年何月何日 某裁判所ニ於テ

判事 氏名印
書記 氏名印

第六十二條

事被告人及ビ民事
擔當人ヨリ管轄違
又ハ公訴受理ス可
ラサルノ申立ヲ為
シ其申立ヲ受理シ
タル片又ハ職權ヲ
以テ管轄違又ハ公
訴受理スベカラサ
ルモノト思料シタ
ル片ハ左ノ言渡ヲ
為ス
治罪法第二
百七十七條

右昨年來霖雨ニ而河水増破損致居
候間向後万一洪水有之節者大破之
程難計候間岸付修復仕度至急御見
分被成下度此段奉願候也

年月日

右町戸長
氏名印

區長
氏名印

何府長官宛

管轄違言渡書ノ式

言渡書

住所身分職業氏名ノ被告タル云々事件檢事ノ公訴ニ因リ審理中
ノ処被告人(又ハ檢事民事擔當人)氏名ヨリ何々ニ付管轄違ナル旨
申立ヲ為シタルニ依リ審察スルニ何々ノ證據ニ據テ之ヲ觀レハ
何某カ氏名ニ對シ云々ノ罪ヲ犯シタルハ某裁判所管内何地ナル
ヲ明白タリ依テ治罪法第何條ニ云々トアルニ照ラシ右犯罪ハ當
裁判所ノ管轄ニ非ストス因テ管轄違ノ言渡ヲ為スモノ也
明治何年何月何日
某裁判所

判事
氏名印
書記
氏名印

第六十三條

裁
判所ニ於テ前條ノ

道路新開伺

申立ヲ棄却スル片
ハ左ノ言渡ヲ為ス
但本案ノ裁判言渡
ヲ待タズ直チニ控
訴又ハ上告ヲ為ス
了ヲ得此場合ニ於
テハ本案ノ辨論ヲ
停止ス

(治罪法第二
百七十八條)

棄却スル言渡書ノ式

言渡書

住所身分職業氏名カ被告タル何々事件檢事ノ公訴ニ依リ審理中

當村ノ義ハ山間ノ一小村ニ候処何
或此迄隣村何所へ至ル道路坂路ニ
シテ運送不便不少漸々寒村ニ立至
リ歎敷次第ニ付今般一村申合自力
ヲ以テ字何処ヨリ何処迄道路新開
仕度候間別紙圖面差添此段奉伺候

被告人(又ハ檢事民事擔當人)氏名ハ其身分(又ハ場所或ハ罪ノ性質)
ニ依リ當裁判所ノ公判ヲ受ク可キ者ニ非サル旨ノ申立ヲ為スト
虽モ何々ノ理由ナルヲ以テ治罪法第何條ニ云々トアルニ照ラシ
當裁判所ノ管轄ニ属スルモノニ付右管轄連ノ申立ハ棄却スル者
也

明治何年何月何日

何裁判所

判事 氏名 氏名 印

公訴受理ス可ラサルノ申立ヲ棄却スルノ言渡書モ亦之レニ準ス

第百六十四條

檢
事其他訴訟關係人
ヨリ判事又ハ書記
ニ對シ忌避ノ申立

也

年月日

住所身分
村中 總代 氏名 印

ヲ為シ或ハ判事檢
事書記自ラ回避ス
可キモノト思料シ
其申立ヲ為ス手續
キ及ヒ其判決ノ手
續ハ第十一章中ニ
記スル所ニ依テ準
ス但其判決アルマ
テ本案ノ辯論ヲ停
止スルコトヲ訴訟
係人ニ口達ス
(治罪法第二百七十九
条第二百八十條第
二百八十一條)

戸長氏名印
前書之通伺出候ニ付實地檢査仕候
處相違無之候間與印仕候也
區長氏名印

何府長官宛

○道路修築御願

何區何丁目ヨリ何丁目迄道路破損
致シ車馬ハ勿論諸人悉ク往來ニ難

第百六十五條 忌
避又ハ回避ノ申立
ヲ棄却シタル片ハ
前ニ停止シタルヨ
リ以後ノ手續ヲ為
シ又五日間辯論ヲ
停止シタル片ハ新
ニ辯論ヲ為ス
(治罪法第二百八
十二條第二項)

澁仕候間何月何日ヨリ何月何日迄
幾日間ニ其町ヨリ各戸自費ニテ修
復立瓦ニ仕度此段御許容奉伺候也
但片側宛修繕仕牛馬車往來人
但妨ケニ不相成様可仕候

何町戸長

年月日

氏名印

所轄警察所宛

○溝修繕御願

變災厄難ノ為メ訴
訟手續ヲ停止シタ
ル片亦前項ニ全シ

第三百六十六條

(治罪法第百八十條第二項)

判長ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ豫審中管轄官吏作リタル調書及ヒ檢證書類ヲ朗讀セシムルコトアリ是等ノ書類ハ原告被告証人ノ陳述ト同一ノ効ヲ有ス

(治罪法第百八十四條)

何郡何町何番地ヨリ同何番地迄何間ノ溝岸破損仕候ニ付本月何日ヨリ日數何日ノ間修繕仕度依テ此段御願奉申上候也

(年月日其他前二同シ)

○牛馬留札御下渡御願

何郡何町何丁目ヨリ何丁目迄道路修繕御許可相成何日着手仕候ニ付

第三百六十七條

檢

事其他訴訟關係人ノ請求又ハ裁判所ノ職權ニテ調書ヲ作リタル司法警察官ヲ呼出スニハ書記左ノ呼出書ヲ發ス又檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ豫審判事ヲ呼出スニハ裁判所ニテ其請求ヲ允許シタル上書記ヨリ發ス

車馬通行差止ノ榜御下ケ渡被下候様奉願候也

○道路修覆成就御届

何郡何町何々通り本年何月幾日願濟ニテ道普請仕候処昨日迄ニ全ク出來仕候間牛馬留御下ケ札御返納仕此段御届申上候也

(二件ノ共年月日他ハ前二同シ)

ル呼出書モ亦左ニ掲ゲ
職權ヲ以テ豫審判事ヲ呼出ス書面ノ式モ亦之ニ準ズ(法律第百八十五條)
調書ヲ作りタル司法警察官ノ呼出ス書式

呼出書
住所身分職業氏名カ被告タル何々事件ニ付何年何月日何所ニ於
テ作りタル調書ノ儀ニ付被告人氏名(又ハ民事原告人氏名或ハ檢
事何基)ヨリ証人トシテ呼出度段申立ルニ付來ル何月何時出廷
可有之候也

明治何年何月日

何裁判所

書記

氏名 附

司法警察官宛

若シ裁判所ノ職權ニテ呼出ス片ハ本文中被告人以下ノ事實証明ノ
為ニ來ル何月云々ニ作ルナリ

調書ヲ作りタル豫審判事ヲ呼出ス書式

住所身分職業氏名カ被告タル云々事件ニ付明治何年何月日何所
ニ於テ作りタル調書ノ儀ニ付其說明ヲ要シ度段檢事氏名(被告人
氏名或ハ民事原告人氏名)呼出度旨申立ルニ依リ聞届候條來ル何
月何日時出廷可有之候也

明治何年何月日

某裁判所

書記

氏名 附

某裁判所

豫審判事氏名殿

若シ裁判所ノ職權ヲ以テ呼出ス片ハ本文中(何所ニ於テ作りタルノ
下)調書説明ノ為ニ來ル何月何日云々ニ作り其宛名ハ前ニ同シ

第百六十八條 豫

審ニ於テ訊問シタル証人ヲ呼出シ更ニ訊問スルハ其陳述若シ豫審ノ陳述ト差異ナケレバ更ニ調書ヲ作ラス
(治罪法第二百八十六條第一項)
豫審ニ於テ録取シタル証人ノ陳述書ハ其証人ヲ呼出サハル時証人呼出ヲ

○新規建家願

私所有地何區何村何番地空地へ新規家作仕度候ニ付何卒兩落御檢査ノ上御許容被成下度繪圖面相添此段奉願候也

(繪圖面畧之)

年月日

住所身分

氏名印

戸長

氏名印

何府縣長官宛

○借家新築御願

私所有何區何村何番地空地へ今般別紙圖面ノ通り借家何十戸新築仕度充道幅御規則ノ通往来ノ差支ニ不相成様可仕候間此段奉願上候也
(年月日其他前同シ)

○社修繕御願

何郡何村何番地

受テ出廷セサルハ豫審公判ノ陳述ヲ比較スベキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ依リ又ハ職権ヲ以テ書証ヲシテ之ヲ朗讀セシムルヲアリ
(治罪法第二百八十六條第二項)
第百六十九條 証人ニ関スル手續ハ第六章中皇族勅任官ノ陳述ヲ聽ク

ノ方法及ヒ其他ノ
條ヲ適用ス

治罪法第百八十七條
第百七十八條ヨリ第
百九十九條ニ
至ルマデ

第百七十條 証人

ハ互ニ言語ヲ接セ
シメズ又陳述前辨
論ニ立會ハシメズ
其未タ訟廷ニ呼込
マサル者ハ之ヲ証
人扣席ニ置キ其陳
述ヲ畢リタル者ハ
訟廷ノ隅ニ扣ヘシ

無祿何々社

本社撰社末社拜殿神庫鳥居石壇昨
寺法堂山門經藏鐘樓方丈庫裏昨
年來破損仕最早難捨置候ニ付今般
修覆仕度充旧例ノ通壇産子中ノ申合
ニテ出金修覆仕度別紙見積書壹冊
圖壹葉相添此段奉願候也

年月日

社主幹者 氏名印
寺産子 氏名印
壇家総代人 氏名印

ム

治罪法第百八十八條
第百七十一條 証人

人ノ陳述不実ニシ
テ故意ニ出テ禁錮
以上ノ刑ニ該ル可
キ者ト思料シタル
ハハ書記ムシテ其
陳述ヲ録取セシメ
判事書記ハ其證人
ト共ニ署名捺印シ
左ノ如ク豫審判事
ニ送致ス可キノ旨

右

戸長 氏名印

何郡長宛

○繕普請御願

一私宅表口三間ノ内東手ニ從前二
間ノ格子有之候処此度勝手ニ付一
間ニ切縮メ其跡一間ハ送り板戸ニ
相改申度日數ハ來幾日ヨリ幾日迄

渡ヲ為ス但シ其證人ハ直ニ之ヲ取押ヘ巡査ニ拘引狀ヲ付シ豫審判事ニ送致セシメ其證人ノ陳述書モ亦之ヲ送致ス
(治罪法第二百九十九條第一項第二項) 前項ノ場合ニ於テハ本ノ事件ノ裁判ヲ延期シテ其旨ヲ訴訟關係人ニ口達スルコトアリ

ニ落成可仕充御規則ノ通聊モ出張リ不申候間御檢査被成下度圖面相添此段奉願上候也

(圖面畧之)

住所身分 年月日 氏名 印 戸長 氏名 印

何府縣長官宛

(治罪法第二百九十九條第二項)

證人不實ノ陳述ヲ為シタルニ付句引狀ヲ以テ豫審判事ニ送致スベキ言渡書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ被告人何某云々事件ノ證人トシテ出廷シ宣誓ヲ為シナカラ故意ヲ以テ不實ノ陳述ヲ為シタルニ付之ヲ取押ヘ句引狀ヲ以テ當裁判所ノ豫審判事ニ送致スルモノ也
明治何年何月何日

何裁判所ニ於テ檢事氏名出廷ノ上之ヲ言渡ス

判事 氏名 印 書記 氏名 印

句引狀ハ巡査ニ付スルコト豫審ノ手續ニ準ズ

第七十二條 被

告人關席シタル場
合ヲ除クノ外證人
呼出ニ應セザル片
ハ裁判所ニ於テ即
時ニ檢察官ノ意見
ヲ聽キ左ノ如ク科
料罰金ヲ言渡ス但
其言渡ニ對シテハ
故障及ヒ控訴ヲ為
ス可ト得ス
一違警罪事件ニ付
テハ五錢以上一圓

○板圍願

一私抱邸何郡何村何番地空地へ本
月幾日得御許可新規建家仕候ニ付
本日ヨリ來何月幾日マデ日數何十
日間板圍仕度尤往來ノ妨ケ不相成
様可仕候依此段奉願候也

年月日

住所身分

氏名印

戸長 氏名印

九十五錢以下ノ科
料
二輕罪以上ノ事件
ニ付テハ二圓以上
十圓以下ノ罰金
前二項ノ罰金科料
ヲ言渡スニハ左ノ
言渡書ヲ以テス
治罪法第百
九十三條

罰金科料ヲ言渡
書式

言渡書

所轄警察署宛

○硝子燈新建御願

一私住宅ノ軒先へ三間毎ニ硝子燈
壹箇總テ五基新置仕度尤鍍金具ヲ
以テ廂ヨリ差出シ往來へ杭柱等取
設不仕候間此段御許可奉願上候也

年月日

住所身分

氏名印

(其他前二同シ)

住所身分職業氏名ハ被告人何某云々事件ニ付其證人トシテ何月何日時當裁判所へ出廷ス可キ旨ノ呼出ヲ受ケナカラ共呼出ニ應ゼサルヲ以テ治罪法第二百九十三條ニ照シ罰金何圓(又ハ科料何圓何錢)ニ處スル者也
明治何年何月何日

何裁判所

判事 氏名 印
書記 氏名 印

第七十三條 前

條ノ言渡書ハ即時ニ書記ヨリ本人ニ送致ス其言渡ヲ受ケタル者三日内ニ出廷スルヲ能ハサ

○足代御願

一私居宅表口何間大家根或ハ廂破損致候ニ付本月何日願濟ニテ葺替

ルノ正當事由ヲ證明シタル内ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ科料又ハ罰金ノ言渡ヲ取消スル左ノ書式ニ從フ

仕度ニ付本日ヨリ來ル何月何日迄丸太木ヲ以足代仕度奉存候尤往來ノ妨ゲニ不相成様注意可仕候此段奉願候也

硝子燈建替御願

若シ重罪裁判所間廳ノ内言渡シタル罰金科料ニシテ其閉廳後ニ前項ノ證明ヲ為サントスル内ハ重罪裁判所ヲ

何郡何町何番地私住居左右ハ從來設立仕置候硝子燈貳基致破損候ニ付今般旧燈相廢更ニ別紙圖面ノ場

開キタル輕罪裁判所ニ其申立ヲ為ス

治罪法第二(百九十四條)

所へ貳基建築仕候間此段御願申上候也 (圖面畧之其他書式前二同シ)

料料又ハ罰金ノ言渡ヲ取消ス言渡書ノ式

言渡書

住所身分職業氏名ハ當裁判所へ証人トシテ出廷ス可キ旨ノ呼出ヲ受ケ其呼出ニ應セザルニ付何年何月何日罰金(又ハ料料)何田ニ處シタル處其當日出廷スルヲ能ハザリシハ云々ノ事由ニ係ル段証明スル事實正當ナルヲ以テ治罪法第二百九十四條ニ依リ右罰金(又ハ料料)ノ言渡ヲ取消ス者也

明治何年何月何日

某裁判所

判事 氏名 (印)
書記 氏名 (印)

第七十四條 證

人呼出ニ應セザル片ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以公判ヲ延期スルノ言渡ヲ為スヲアリ檢察官自ラ其請求ヲ為サバ片ハ公判ノ延期ニ付キ意見ヲ陳述ス

治罪法第二(百九十五條) 第七十五條 証

官有地拜借願

字何々何番 一何素地何町何反何畝何歩或何坪

此拜借地料ハ一ヶ月金何田何十錢

但一反或八百坪ニ付何程

何ヶ年季 永々モ滿五ヶ年以下タルベシ滿季指)

右地所何々用 使用ノ事故ヲノ為メ拜借

仕度候間御聞届被下度尤御聞届ノ

上ハ前書ノ料金 年々又上納可仕候依

人再度ノ呼出ニ應
 ゼザル片ハ檢事ノ
 意見ヲ聽キ左ノ如
 キ言渡ヲ為ス但其
 其言渡ハ第百七十
 二條ニ記載シタル
 罰金科料ノ二倍及
 ビ再度ノ呼出費用
 ヲ言渡ス此場合ニ
 於テモ亦前條ニ從
 ヒ再ビ公判ヲ延期
 スルコトアリ但延期
 シタル片ハ其証人

之圖面相添奉願候也

年月日

(圖面略之)

住所身分

拜借人 氏名 印

保証人 氏名 印

(但ニ保証人ハ三人以上スルベシ)

戸長 氏名 印

前書ノ通願出候ニ付奥印仕候也

區長 氏名 印

何府長官宛

ニ對シ勾引狀ヲ發ス(治罪法第百九十六條)

証人再度ノ呼出ニ應ゼザル片料罰金ノ言渡書式

住所身分職業氏名ハ被告人何某ノ云々事件ニ付証人トシテ出廷
 スベキ旨ノ呼出ヲ受ケタルモ終ニ應ゼザルヲ以テ明治何年月日
 罰金科料何円ニ應ゼラレ仍ホ明治何年月日時再ヒ其呼出ヲ受ケ
 ナガラ再度之ニ應ゼザルヲ以テ治罪法第百九十六條云々トア
 ルニ照シ罰金又ハ料料何十円ニ處スル者也
 但再度呼出ノ費用何錢ヲモ納完ス可シ

明治何年何月何日 何裁判所

判事 氏名 印
 書記 氏名 印

第百七十六條 裁

判所ニ於テ事實見ノ為ノ必要ナリトスルハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新ナル證人ヲ呼出シ鑑定ヲ命ジ若シクハ臨檢ヲ為スニアリ是等ノ處分ヲ為スニ付テハ第五章第六章第七章及ヒ治罪法

○其二

一私令般何區郡何村官地へ別紙圖面ノ通東方ノ角間口何間與行何間此坪何程拜借何々製表作場開商所建築仕度候依テ一坪ニ付一ヶ月何程之地祖上納仕候間御差支無之候ハ、御允可被成下度此段奉願候也

(年月日其他書式前ニ同シ) (別紙畧之)

第三編第三章等ノ手続ニ從フ

(治罪法第三百五十七條)

又豫審ヲ經ザル事件ニ付テハ豫審判事ヲシテ其指示スル所ノ條件ニ付キ取調ヲ為シ且其報告書ヲ差出ラシムルヲアリ

第百七十七條 公

判ニ付新ニ命ジタ

○土砂石瓦材木置場御願

一私居宅大破ニ付今般願濟ニテ修覆仕候ニ付同町何番地ト何番ノ間ニ小路有之或ハ材木置場巾何間ニ取設何月何日ヨリ何月日迄拜借仕度候依テ圖面相添此段奉願候也

年月日 住所身分 氏名 印

前書ノ通申出候間場所見分仕候処

第七十九條

論中証據差出ノ詐
否又ハ順序証人訊
問ノ次第公判ノ
手続キニ付異議ノ
申立アリタルハ
裁判所ニ於テ檢事
ノ意見ヲ聽キ直チ
ニ左ノ判決ヲ為ス
但其判決ニ對スル
控訴又ハ上告ハ本
案ノ裁判言渡アリ
タル後ニ非ザレバ

○寸尺帳離形

一何木 長サ何間尺 廻リ何尺寸 何本

一何木 長サ何間尺 廻リ何尺寸 何本

(此他幾本ニテモ此例ニ准ス)

右之通相違無之候也

年月日

社主幹 氏名印

戸長 氏名印

何區郡長宛

之ヲ為スヲ得ス(治罪法第
三百二條)

異議ノ申立ニ付判決書ノ式

判決書

何住所職業氏名ノ被告タル何々事件ニ付呼出シタル其証人ノ訊問
乙某ヲ先ニシ甲某ヲ後ニスルハ証人氏名目錄ノ順序ニ違フタル旨
異議ノ申立ヲ為スト虽其乙某ヲ先ニ甲某ヲ後ニ訊問シタルハ
被告人氏名ノ意見ヲ聽キ茲ニ其順序ヲ變更シタルモノナルニ依リ
治罪法第百九十九條裁判長ハ証人ヲ呼出シタル者ノ意見ヲ聽キ其
順序ヲ變更スルヲ得トアルヲ適用シタルモノトス依テ檢事ノ意
見ヲ聽キ異議ノ申立ハ棄却スル者也

明治何年何月何日

某裁判所

判事 氏名 氏名
書記 氏名 氏名
印 印

治罪法第三百三條ノ異議ノ申立ニ付判決書モ亦之ニ準ズ

第八十條

民事
擔當人ハ始審終審
ヲ問ハズ何時ニテ
モ其訴訟ニ關係シ
又民事原告人ハ民
事擔當人ヲシテ其
訴訟ニ關係セシム
ルヲアリ若シ此場
合ニ於テ異議ノ申
立アリタルキハ前
條ニ準シ之ヲ判決
ス但判決ニ對シ本
案ノ裁判言渡ヲ待

○部分水植付願

御管内何國何郡何村何字何官山野及
別何程へ何木何程幾官幾民ノ部分
方法ヲ以テ御規則ノ通私費植付被
差許度此段奉願候也

年月日

住所身分

氏名印

前書ノ通相違無之候ニ付被差許度

夕ズ直チニ控訴又
ハ上告ヲ爲ス片ハ
本案ノ辨論ヲ停止
スルニ日ヲ訴訟關係
人ニ口達ス

第八十一條

治罪法第
三百三條
廷ノ辨論已ニ終レ
ハ判事直チニ裁判
言渡書ヲ作リ書記
ト共ニ署名捺印シ
即時若シクハ次日
ヨリ起算人ハ公廷

候也

何縣長官宛

廬長 氏名印

○官有地拂下願

元何々官有地

何國何郡何村地内

一 反別何町何反何畝步

公園山林野澤湖沼

此相當代價何程

二於テ之ヲ言渡ス
(治罪法第三
百十四條)

第百八十二條

犯
罪ノ証憑充分ナル
トキ刑ノ言渡ヲ為
スニハ左ノ如ク事
實及ビ法律ニ依リ
其理由ヲ明示シ且
一切ノ証憑ヲ明示
ス

(治罪法第三百
四條第二項)

右ハ私放牧養ノ目途ニテ私有地ニ

仕度何卒御拂下ケ被下候様懇願候

也

住所身分

氏名印

年月日

前書願ノ趣相違無之候間奥印仕候

也

區長

氏名印

地方長官宛

裁判言渡書

何々裁判所ハ檢事ノ請求ニ依リ住所職業氏名ニ對シ何々事件ニ
付キ發シタル呼出狀豫審判事カ住所職業氏名ノ云々事件ヲ當裁
判所ニ送致スル言渡ニ因リ公訴ヲ受理シ茲ニ檢事及ヒ各証人ノ
陳述鑑定人ノ申立民事原告人ノ請求被告人(辯護人)及ヒ民事擔當
人ノ答辨ヲ聽キ證據物件豫審調書檢證書類ヲ檢閱シ原告證人ノ
陳述鑑定人ノ申立及ヒ何々物件豫審調書檢證書類ニ依リ被告人
何某ハ明治何年何月何日某所ニ於テ何々ノ事ヲ為シタルモノト
判定ス乃チ之ヲ法律ニ照スニ刑法第何條ニ何々全第何條ニ云々
トアルニ依リ氏名ヲ禁錮何月ニ處シ其犯罪ノ用ニ供シタル何品
ハ官ニ没入シ其所持ノ盜贓何々外幾品ハ本主某ニ還付シ差押物
品何外幾品ハ本主氏名ニ還付ス民事原告人氏名ノ請求ハ云々ニ
付キ其理直ナリトス依テ金何十円何十錢ヲ被告人氏名民事擔當

人氏名ヨリ賠償ス可キモノ也
但公訴裁判費用金何円費用金何十円ノ内何円何十銭ヲ納完ス
可シ

明治何年何月何日

某裁判所ニ於テ檢事氏名出廷ノ上言渡ス

何裁判
所之印

判事 氏名
書記 氏名
印 印

關序裁判ノ言渡書ハ本文ノ末(賠償ス可キ者也)ヲ(賠償ス可キ)ヲ命
スト記シ其次ニ左ノ一項ヲ加フ
右ハ被告人(又ハ民事擔當人其他代人)呼出ヲ受ケ出廷セサルニ付
檢事及ヒ民事原告人ノ請求スル所ヲ聽キ關席裁判ヲ言渡スモノ
ナリ

但此關席裁判言渡ニ對シ故障ヲ為スヲ得可ク其期限ハ何日ナ
リトス
又民事原告人出廷セザル片亦之ニ準ス但被告人又ハ其他ハ者欠
席シタル片ハ言渡書ノ本文中其者ノ答辨又ハ請求ノ一ヲ記セザ
ル可シ

第百八十三條 治

罪法第二百二十四
條第三以下ノ場合

ニ於テ免訴ノ言渡
ヲ為スニ付テモ亦
事實法律等ヲ明示
スル一左ノ如シ
(治罪法第三百四條第二

○山林御拂下入札

(雛形ノ式)

証

何國何郡何村字何御林山

一及別 何程

此地代金何程 但一及步
ニ付何程

項第三百五十八條第二項

免訴言渡書式

裁判官言渡書
 某裁判所ハ豫審判事ガ任所身分職業氏名ノ何々事件ヲ當裁判所
 ニ送致スル言渡ニ因リ公訴ヲ受理シ爰ニ檢事及ヒ各証人ノ陳述
 民事原告人ノ請求被告人(辯護人)ノ答辨ヲ聽キ證據書類ヲ熟閱ス
 ルニ被告證人ガ談事件ハ既ニ確定裁判ヲ經タル旨ノ陳述明治何
 年何月日某裁判所ニ於テ氏名ニ言渡シタル裁判言渡書ニ依レバ
 被告人氏名ハ談事件ニ付既ニ何々ノ裁判言渡ヲ受テ其裁判確定
 シタルヲ明白ナリトス依テ之ヲ治罪法第九條及ビ第三百五十八
 條第二百廿四條第四ニ照シ被告人氏名ハ免訴ノ上放免ス
 民事原告人氏名ノ請求ハ云々ニ付其理曲ナリトシ私訴裁判費用
 金何十円何錢ハ被告人何某ニ償却スルヲ氏名ニ命ズルモノナ

リ

明治何年何月何日

某裁判所ニ於テ檢事氏名出廷ノ上言渡ス

何裁判所ノ印

判事	氏名	印
書記	氏名	印

犯罪ノ證據何分ナラサル片無罪ノ言渡ヲ為スニハ左ノ如ク無罪
 ノ理由トシテ被告人ニ對シ犯罪ノ證據ナキヲ明示ス
 (治罪法第三百五條第一項)
 免訴無罪ノ言渡ヲ為ス場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタル片ハ放
 免ノ言渡ヲ為ス(治罪法第三百五十八條第三項)

無罪ノ言渡書式

裁判言渡言書

何裁判所ハ檢事氏名ノ請求ニ依リ何住所職業氏名ニ對シ何々事
件ニ付書記局ヨリ發シタル呼出狀ニ因テ公訴ノ受理シ茲ニ檢事
氏名及ビ証人氏名ノ陳述被告人氏名辯護人氏名ノ答辨ヲ聽ク處
被告人何某ガ云々ノ罪ヲ犯セシ証憑充分ナラザルニ依リ乃チ氏
名ヲ無罪ナリト判定シ治罪法第三百五十八條第三項ニ照シ其拘
留ヲ放免スル者也

明治何年何月日

某裁判所ニ於テ檢事氏名出廷ノ上言渡ス

判事

氏名

印

書記

氏名

印

本文中大審院其他豫審判事ノ送致ニ係ルモノハ總テ其受理シタ

事實ヲ揭ク

第一百八十四條

被

告事件違警罪ナル
片ハ左ノ如ク終審
裁判ノ言渡ヲ為シ
且ツ被告人拘留ヲ
受ケタル片ハ釈放
ノ言渡ヲ為ス
(治罪法第三百
五十九條)

一本數

何本

此代金何程

松杉檜雜木通リ何尺四ヨリ
何尺マデ平均何本ニ付何程

右ノ通入札仕候處落札ニ相成候節
立本代即金地代金ノ義ハ何々年
賦ヲ以テ上納可仕候也

年月日

住所身分

氏名

印

地方長官宛

輕罪裁判所ニ於テ違警罪ヲ裁決スル言渡書式

裁判言渡書

何輕罪裁判所ハ檢事ノ請求ニ依リ住所分職業氏名ニ對シ云々
 事件ニ付發シタル呼出狀ニ因テ公訴ノ受理シ爰ニ檢事及ビ各證
 人ノ陳述被告人ノ答辨ヲ聽キ一件審理スル處原告證人ノ申立ニ
 依レバ被告人氏名ハ明治何年月日某所ニ於テ住所氏名ヲ毆打シ
 其創傷ヲ為サズ疾痲ニ至ラザリシト何々ニ依リ明瞭ナリトス依
 テ刑法第四百十條ニ左ノ諸件ヲ犯シタル者云々其第九ニ何々ト
 アルニ照シ被告人氏名ヲ何円何十錢ノ科料ニ處シ治罪法第三百
 五十九條ニ依リ其拘留ヲ釈放ス
 右ハ終審トシテ檢事何某ノ出廷ノ上裁判言渡ス者也
 明治何年何月何日

某輕罪裁判所

(氏名前二同シ)

第百八十五條 被

告事件重罪ナルト
 キハ管轄違ノ言渡
 ヲ為シ若シ豫審ヲ
 往ザル中ハ豫審判
 事ニ送付スルノ言
 渡ヲ為ス共ニ其
 書式ヲ左ニ掲ケ
 但被告人拘留ヲ受
 ケザルルハ勾引狀
 ヲ發ス
 訴訟書類及ビ證據
 物件ハ檢察官ヨリ之

○明細書凡例

土地家屋拜借

一何國何郡何町何番地陸軍省御所
 轄某地(或ハ某)面積何坪若干此一ケ
 月借地料金幾何(或ハ家屋借料)
 (但別紙測量圖面一葉)
 第何号
 桁 行
 梁 家
 平 家
 (或ハ二層造)
 一棟
 何間
 何間
 何間

ヲ豫審判事ニ送致ス

(治罪法第三百六十条)

此建坪幾何十坪

(但シ六尺坪乎、六尺三寸乎、六尺五寸坪乎ヲ記スベシ)

(次ノ丁)

管轄違ノ言渡ヲ為ス書式

裁判言渡書

何輕罪裁判所ハ檢事氏名ノ求ニ依リ住所身分職業氏名ガ被告タル云々事件ニ付氏名ニ對シテ發シタル呼出狀(又ハ某輕罪裁判所豫審判事ガ住所身分職業氏名ノ何々事件ヲ當裁判所ニ送致スル言渡ニ因テ公訴ヲ受理シ檢事及ビ各一人ノ陳述鑑定人ノ申立被告人ノ答辨ヲ聽キ豫審調書ヲ閱スルニ被告人民名ハ明治何年月日時某所ニ於テ云々ノ事ヲ為シタル何々証憑ニ依リ明白ナルヲ以テ之ヲ刑法第何條ニ何トアルニ照シ重罪ナルヲ以テ當裁判

所ノ管轄ニ非ストス依テ治罪法第三百六十條ニ照シ管轄違ヲ言渡シ及ビ治罪法第三百六十一條ニ依リ本件ヲ當裁判所ノ會議局ニ送付スルモノ也

明治何年月何日

某輕罪裁判所ニ於テ檢事氏名出廷ノ上言渡ス

判事

書記

氏名

氏名

若シ豫審ヲ經ザルキハ本文中(管轄違ヲ言渡シ)ノ下ヲ(且本件ハ未タ豫審ニ經ザルヲ以テ當裁判所ノ豫審判事ニ送付スル者也)ニ作ルナリ

又治罪法第三百六十三條ノ場合ニ於テハ本文中(會議局ニ送付)ノ下ヲ同局ノ判決アルマデ何某ヲ當裁判所ノ監倉ニ留置スル者也ニ作ルナリ

第四百八十六條 被

告事件重罪ニシテ豫審ヲ經タル片ハ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ為スル前條ニ從フ
(治罪法第三百六十一條第一項)
會議局ニ於テ必要ナリトスル片ハ判事壹名ヲシテ更ニ豫審ヲ為シ又ハ其指示スル所ノ條件ニ付更ニ取調ヲ為

(此結構屋蓋ハ何葺ニシテ内外壁或ハ何天井何張或ハ何床板張或ハ土間等ノ廉記載スベシ)

(但建物同等ニシテ附屬品モ同様ナルハ何号ヨリ何号マデ幾棟ト記載シ異同アルハ廉分ケニスベシ家屋ニ附屬セル鋪物建具類其他取付シ易キ諸品物ハ悉ク每家廉限記載スベシ)

一樹木

何本

但目通周廻一尺五寸以上ノ檜杉或ハ何種各周尺長伸ヲモ記ヌ充モ其周回右定寸ニ及バザル苗木ノ栽培倍

シ其報告書ヲ差出サシム

(治罪法第三百六十一條第二項第二百五十三條)

會議局ニ於テ取調中共犯ノ起訴ヲ受ケザル者アルヲ附帶ノ犯罪ニ付豫審ヲ受ケザル者アルヲ發見シタル片ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ判事壹名ヲシテ豫

右之通有之候也

年月日

拜借人 氏名 印

審ヲ為シ其報告書ヲ差出サシノ檢事ノ意見書豫審報告書其他訴訟書類ニ依リ本案ト共ニ之ヲ判決ス

(治罪法第二百五十五條第三百六十一條)

第百八十七條 會議局ハ公判判事ヨリ送付シタル事件ノ取調ヲ終レバ左ノ如ク被告人ヲ管轄裁判所ニ送付ス

保証人 氏名・印

○製圖凡例

- 一 借地ノ區劃ハ朱線ヲ以テシ猶勾股線ヲ設ケテ傍ラニ間尺ヲ記シ總面積ヲ記載スベシ
- 一 建物ノ位置ハ圖中へ色分ヲ以テ示シ成ルバクハ傍ラニ間數ヲ記スベシ尚別紙中へ家別適宜ノ番号ヲ付シ建地ノ坪數ヲ記載スベシ

ルノ言渡ヲ為ス

(治罪法第三百六十一條)

管轄裁判所ニ送付スルノ言渡書式

一 樹木ハ色分ヲ以テシ且其概面積ヲモ記載スベキモノトス

言渡書

某輕罪裁判所會議局ハ何輕罪裁判所ヨリ任所身分職業氏名ノ被告タル云々事件ノ送付ヲ受ケ茲ニ治罪法第三百五十三條ニ依リ更ニ豫審ヲ為サシメ其報告書及ヒ一件書類ヲ審閱スルニ被告人氏名ハ明治何年何月日某所ニ於テ云々ノ事ヲ為シタル何々ノ証憑ニ依リ明瞭ナリ右ハ刑法第何條ニ何々トアルニ依リ何々ノ刑ニ處ス可キ重罪(又ハ輕罪)ナルヲ以テ治罪法第三百六十一條第二項ニ照シ被告人氏名ヲ何重罪(輕罪)裁判所ニ送付スル者也

明治何年何月 日

某裁判所

判事	判事	判事	判事
氏名	氏名	氏名	氏名
印	印	印	印

第百八十八條 會

議局ノ言渡ニ因リ
事件ヲ受理シタル
場合ニ於テ新ナル
証憑ヲ発見スルヲ
無クシテ其事件ヲ
重罪ナリトスルハ
左ノ如ク管轄違

一 方位及接近地并其所用ノ名称ヲモ
可成書載スベシ
一 製圖ハ可成分割ノ短縮シ用紙ハ薄美濃
ノ類ヲ用ウベシ

○濱地生樹伐採御願

一 私所有何區郡何川筋何村何番地濱

ノ言渡ヲ為ス(治罪法第百六十三條第一項)

管轄違ノ言渡ヲ為ス書式

裁判言渡

何輕罪裁判所ハ會議局ノ言渡ニ因リ住所身分職業氏名ヲ被告ナル
云々事件ノ公訴ヲ受理シ檢事及ヒ各証人ノ陳述被告ノ答辨ヲ聽
キ且ツ豫審調書ヲ檢閱スル處更ニ新ナル証憑ヲ発見スルヲナシト
雖モ被告人名ガ云々ノ事ヲ為シタルハ刑法第何條ニ何々トアル
ニ照シ重罪ナリトス依當裁判所ノ管轄ニ非サルヲ以テ治罪法第
百六十二條ニ依テ管轄違ヲ言渡ス者也

某輕罪裁判所ニ於テ檢事氏名出廷ノ上言渡ス

判事	判事
氏名	氏名
印	印

又治罪法第三百六十三條ノ場合ニ於テハ本文中(管轄違フ言渡)トアル下ヲ(シ大審院ノ判決ヲルマテ何某ヲ當裁判所ノ監倉ニ留置スルモノ也)ニ作ルナリ

第百八十九條

第百八十六條以下ノ場合ニ於テハ會議局又ハ大審院ノ判決アルマテ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ被告人ヲ留置スルノ言渡ヲ為スナリ又又第百八十九條以下ノ

地ニ今度村木藏新築仕度尤樹木之成立ハ衛生上ニ關シ候云々御達奉畏候へ共事情不得止候間何樹何本伐採仕度此段奉願上候也

年月日

住所身分

何商氏名印
戸長氏名印

手續キニ從ヒ保釈ニ付判決ヲ為スナリ

第百九十條

治罪法第三百六十三條及第百十條以下ノ事件輕罪ニシテ且証憑充分ナル片ハ第百八十二條ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ為ス若シ被告人禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル片ハ當然保釈責付ヲ取消タル者ト

地方長官宛

○道路橋梁修覆金寄附御願

今般何區何街道何村ノ内何々々修築御聞濟ニ相成實ニ万民ノ便益ト奉存候テ取別紙目錄ノ通右修覆費金之寄附仕度此段御願申上候

年月日

住所身分

氏名印
氏名印
戸長氏名印

又但上訴中更ニ保釈ヲ求ムル片ハ通常ノ手續ニ從フ

(治罪法第三百六十四條)

第百九十一條

訴私訴ノ裁判ハ同時ニ之ヲ言渡ス但私訴ニ付取調未ダ充分ナラザル片ハ公訴ノ裁判アリタル後左ノ如ク其裁判言渡ヲ為ス
(治罪法第三百六條)

何那區長宛

○土木請負

請負申家作ノ事

一 建家一ヶ所

間口 何間
奥行 何間
坪數 何間

代金何百円也

内金何円為手附正ニ受取候也

右普請別紙仕様帳ノ通前書代價ニ

公訴ノ裁判アリタル後私訴ノ裁判ヲ為ス片ノ言渡書式
裁判言渡書

住所身分職業氏名カ住所職業氏名ノ被告タル云々(罪名)事件ニ関スル民事ノ請求ハ何々ノ證據ニ依リ何々ナル一明々ナルヲ以テ其理直ナリト認定ス因テ金若干円及ヒ私訴裁判費用何十円ヲ氏事原告人氏名ニ償却ス可キヲ被告人氏名ニ命スル者也

明治何年何月 日

某輕罪裁判所

判事 氏名 印
書記 氏名 印

第百九十二條

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル片ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴

テ請負申処實正也殘金ノ義ハ比自成一ノ上御渡可被下候作事向隨分入念

裁判費用ノ全部又ハ幾部ヲ擔當ス可キノ言渡ヲ為ス
(治罪法第七條第一項) 免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル片公訴裁判費用ハ官ニテ之ヲ擔當ス
(治罪法第三百七條第二項) 私訴裁判費用ハ民事ノ規則ニ從ヒ賤訴シタル者之ヲ擔當ス可キニ因リ民

手技無之様可仕候又御増金等決テ申出間敷候万一仕様帳ト相違ノ廉又ハ仕上不宜候ハバ如何様共差圖ノ通相直シ可申候若當人故障出来候カ或ハ違變等候ハバ証人ノ者引受御指支無之様可仕候為後日依テ如件
年月日
住所身分
請負人 氏名印

事原告人又ハ被告
人ノ請求アリタル
片ハ其言渡ヲ為ス
(治罪法第三百七條第三項)

第百九十三條 被
告人刑ノ言渡ヲ受
ケタルト否トヲ問
ハス没收ニ係ラザ
ル差押ヘ物品ハ其
所有主人ノ請求ナシ
ト虽凡之ヲ還付ス
ルノ言渡ヲ為ス
(治罪法第三百八條)

保証人 氏名印

何誰宛

○試堀共ニ御願
借區開坑
住所身分

氏名

一何縣何國何郡何山

但官有地又ハ民有地

何礦

(但借區ハ字一ヶ所毎ニ坪數ヲ記ス
數ヶ所アラハ其合計ヲ掲クベシ)

新撰書式

明治何年何月 日

某裁判所

書

記

氏名

印

又拔書ノ奥書ハ左ノ如シ

右氏名ガ求ムル所ノミ正本ニ依テ拔書スル所相違無之者也

明治何年何月何日

某裁判所

書

記

氏名

印

第百九十五條

審裁判ニ依リ刑ノ

言渡アリタルハ

判事ヨリ其言渡ヲ

受テタル者ニ對シ

自費ヲ以テ言渡書

ノ謄本又ハ拔書ヲ

地名番号

墓地

何坪

○墓地購求ノ願

右ハ私墓地致度候間本文ノ通御下
渡奉願候尤諸事御規則ノ通相守可

求ムルヲ得ベキ

及ヒ其言度ニ對シ

輕罪ナレバ五日

ニ控訴ヲ為スヲ得

ベキ

ハ公廷内ニテ犯シ

タル輕罪ナレバ三

日内ニ上告ヲ為ス

ヲ得ヘキ

知ス

(治罪法第三百十

六條第一項)

關席裁判ニ因リ刑

ノ言渡アリタルハ

申候以上

年月日

住所身分

氏名 印

何誰宛

第四章

諸證券之文例

○無利息借用金之証

一金何百何拾圓也

(金ノ多少ニ拘ハラズ
一錢ノ印紙ヲ貼用ス)

右金額明治何年何月何日ヨリ來ル

行儀

二百廿七

ハ其言渡ニ對シ故
障ヲ為スヲ得ベキ
ト及ビ其期限ヲ言
渡書ニ記載ス但其
期限ハ治罪法第三
百五十五條第三百
三十二條第二項及
ヒ第三百五十六條
ノ規則ニ從フ
(治罪法第三百
十六條第一項)
若シ告知又ハ其記
裁ナキ片ハ更ニ其
告知アルマデ上訴

何年何月何日迄無利息ニテ恩借申
候処實正也右期限ニ至リ無相違可
致返濟候若及淹滯候ハ、不関本人
保證人引受即時可致辨償其證如斯
ニ候也

年月日

住所職業

借主 氏名 印

保証 氏名 印

何誰殿

期限ノ經過ヲ停止
ス

(治罪法第三百
十六條第二項)
第百九十六條 書

記ハ治罪法第三百
十七條第三百十八
條ニ從ヒ各事件毎
ニ一切ノ訴訟手續
キヲ簡明ニ記載シ
左ノ如ク公判始末
書ヲ作り裁判言ヒ
渡ヨリ三日内ニ之
ヲ整頓シ判事及ヒ

○金子借用ノ証

(但拾円毎三錢印紙ヲ貼用ス)

一金何百円也

但一ヶ月利息何程

右金額要用ニ付借用申候処實正也
然ル上ハ約定ノ通何月何日元利共
取揃無相違返辨可致候萬一及遠滯
候ハ、引請人ヨリ屹度可致返濟候
為後日之依テ如件

新撰書式

書記署名捺印ス但
判事ハ署名捺印セ
ザル以前ニ其始未
書ヲ檢閲シ若シ意
見アレバ其紙尾ニ
記載ス
(治罪法第三
百十九條)

(年月日其他前ニ同シ)

○無利足預リ金之証

(金ノ多寡ニ拘ハラズ壹錢印紙ヲ貼用ス)

一金何百円也

無利足

右ハ無利息ニテ正ニ預リ置候処實

公判始未書ノ式

何其一件公判始未書

明治何年何月何日判事氏名ハ其輕罪裁判所ニ於テ檢事氏名書記
氏名ノ立會ニテ公廷ヲ開キ檢事ノ請求ニヨリ呼出シタル又ハ豫

審判事ノ判決ニ依
リ移サレタル被告
人何某カ云々事件
ノ公訴ヲ審判ス
被告人ハ身体ノ拘
束ヲ受クル一ナク
守率ニ引違セラレ
公廷ニ出頭シタリ
(又ハ代人氏名ヲシ
テ公廷ニ出頭セシ

正也費用ノ節ハ何時ニテモ可致返
違候若其際異常ノ儀有之候共保証
人預リ主ニ代リ相渡可申候為後日
預リ証書如斯ニ候也

年月日

住所身分

預リ主 氏名印

全上 保証人 氏名印

何ノ誰殿

新撰書式

二百二十九

メタリ

本件ノ裁判ハ之ヲ公行ス判事ハ被告事件云々(其禁スル理由)ニ付檢
 事ノ請求ニ依リ或ハ職權ヲ以テ訊問及ヒ弁論ノ傍聽ヲ禁スルノ言
 渡ヲ為シタリ但裁判言渡ノ節ハ其傍聽ヲ許セリ
 判事ハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所及ヒ出生ノ地ヲ問フ被
 告人ハ氏名ハ何某年齢ハ何年何月身分ハ何々職業ハ何々住
 所ハ何所出生ノ地ハ何地ナリト答ヘタリ
 檢事ハ被告人氏名ハ明治何年月日時某所ニ於テ云々ノ罪ヲ犯
 シタリ其証憑ハ何々ナリト陳述セリ
 民事原告人何某ハ被告人カ云々ノ事ヲ為シタルニ因リ何々

ノ損害ヲ受ケタル旨申立ツ

判事ハ書記ヲシテ明治何年何月何日云々ノ調書(又ハ申立書
 ノ朗讀)ヒシメタリ

判事ハ原告(被告)證人(職權ヲ以テ呼出シタル證人)氏名ヲ訟廷ニ呼
 入レ其氏名年齢職業住所及ヒ治罪法第百八十一条ニ記載シタル
 者ナリヤ否ヲ問ヒタル後宣誓ヲ為シ何某ハ式ノ如ク宣誓ヲ為
 シ被告人カ云々ノ事ヲ為ス目撃シ且其時被告人カ携提シタル物
 件ハ何品ナル旨又ハ何々ノ事實ナレハ被告人ハ云々ノ事ヲ為レ
 ル可キ旨陳述シタリ

判事ハ鑑定人氏名ニ何々ノ鑑定ヲ為ス可キト命令シ之ニ宣誓ヲ為

サシム氏名ハ式ニ從ヒ宣誓ヲ為シタル上ニテ何々ノ鑑定ヲ為シ何
々ハ云々ナル旨ノ鑑定書ヲ差出シタリ(又ハ宣誓書ヲ為サシメタル
処何々ナルニ付宣誓書ヲ為スルニ肯セサレ此本件ノ心算ヲ要スル
モノニシテ正當ノ鑑定人ヲ得ルニ能ハサルニ付判事ヨリ氏名ニ
鑑定ヲ命シタル処判事カ示シタル何々ハ被告人ノ何々ト同一ナ
ル旨ノ鑑定書ヲ差出シタリ)
判事ハ何々ノ物件ヲ(其證據)被告人ニ示シ解フ為サシメタ
ルニ被告人ハ何品ハ云々何品ハ何々ナル旨陳述シタリ
判事ハ被告人(辯護人氏名)ニ本件ノ答弁ヲ為サシメ被告人(弁
護人)ハ原告証人ノ氏名ノ陳述ハ不實ニシテ被告人カ云々ノ罪

ヲ犯サルルハ被告人氏名ノ陳述及ヒ明治何年何月何日何々
ノ調書ニ依リ明瞭ナル旨弁護セリ
被告人(弁護人)ハ証人ノ訊問何々事ナレニ付其順序ヲ大ヒ
タル旨異議ノ申立ヲナシ檢事ハ云々ノ意見ヲ陳述ス判事
ハ何々ナル者ヲ判決シ其申立ヲ棄却セリ
檢事ハ被告人ハ何々ノ罪ヲ犯シタルニ因リ刑法第何條云々ト
アルヲ適用ス可キモノナル旨陳述シタリ
民事原告人氏名ハ損害賠償ノ為メ金何十圓ヲ受取度旨陳
述シタリ
被告人(辯護人)ハ某甲(被告人)ハ云々ノ罪ヲ犯サルニ因リ刑法

觸ル可キモノニ非ス且ツ民事原告人ニ對シ何々ノ損害ヲ
加ヘサレハ其賠償ヲ為ス可キ義務ナキ旨(何々ノ事ヲ為シ
タルモ右ハ刑法第何条ヲ適用スヘキモノニシテ檢事ノ意見
ハ過當田ナル旨)答弁シタリ
民事擔當人氏名ハ何々ニ付被告人ノ義務ヲ擔當スヘ
キ理由ナキ旨答弁シタリ
右弁論ノ順序ハ前ニ記載シタルカ如ク且ツ被告人ヲシテ
最終ニ発言ヲナサシメタリ

判事氏名ハ即日即チ明治何年何月何日次日即チ何年何
月日某裁判所ニ於テ檢事氏名ノ立會ニテ刑法第何条

ニ依リ被告人氏名ヲ何々ニ処シ且ツ金何圓ヲ民事原告人氏名
ニ賠償スヘキ旨裁判言渡ヲ為シタリ
判事ハ又被告人ニ其費用ヲ以テ裁判言渡書ノ謄本又ハ檢
書ヲ求ムルヲ得ヘキヲ及ヒ此言渡ニ對シ五日內ニ控訴(三日內
ニ上告)スルヲ得ヘキヲ告知シタリ

明治何年何月何日

某裁判所ニ於テ書記此始末書ヲ作り判事及ヒ書
記茲ニ署名捺印スルモノ也

判事 氏名
書記 氏名

若シ筆論數日 渉ルキハ本文中ニ(何年何月何日前同一ノ裁判官即テ判事氏名ハ某裁判所ニ於テ檢事何某(檢事氏名代檢事何某)書記氏名(書記氏名代書記何某)ノ立會ニテ公廷ニ出席シタリ)ノ一項ヲ加フ可シ

又被告人出廷セスシテ欠席裁判ヲ為ストキハ本文中被告人ハ身体ノ拘束ヲ受タルナク(被告人ハ呼出ヲ受ケナカフ出廷セス)ト記シ其他被告人ノ訊問及ヒ答弁辯護人ノ答弁ヲ除キ而シテ裁判言渡ノ項ニ(裁判言渡ヲ為シタリトアルヲ)欠席裁判言渡ヲ為シタリト改ム

又判事ニ於テ公判始末書ニ付キ意見アルキハ本文末項ニ

アル(判事及ヒ書記)ハ六字ヲ除キ書記ノミ署名捺印シ判事ハ其次ニ一項ヲ加フレ一左ノ如シ

此始末書中何々ハ云々何々其他本文ノ通り相違ナシ依テ茲ニ署名捺印スルモノ也

明治何年何月何日

某裁判所ニ於テ

判事 氏名 印

又被告カ証憑トスシ物件アルキハ本文中ニ之ヲ記載ス

又辨論中後日ヲ期シテ申立ツヘキ事件ヲ申立タルキハ治罪法第三百七条第五ニ從ヒ是等ノ旨ヲ記載ス

又重罪事件ナルルハ治罪法第四編第四章ニ從ヒ本文ヲ
取捨シ以テ其公判始末書ヲ作ルモノトス

第百九十七條 裁判

言渡書及ヒ公判始

末書ノ正本ハ書記

局ニ於テ之ヲ保存

ス(治罪法第三百)

上訴アリタルルハ

判事及ヒ書記裁判

言渡書及ヒ公判始

○年賦借用金之証

(金高十四每ニ
一錢印紙貼用)

一金何百何拾圓也

但シ一ヶ月利足何程

右券額ノ金高借用致候処實正也返

弁ノ義ハ來ル何年何月ヨリ何年何

未書ノ曆本ニ認印
シテ之ヲ上訴書類

ニ添フ(全上第)

第百九十八條 本案

ノ裁判言渡ニ對ス

ル上訴ノ期限内ハ

上訴アラスト魚片

放免ノ言渡ヲ除ク

ノ外其裁判執行ヲ

停止ス又上訴アリ

月迄何々年賦ニ取極何々何程宛
約定ノ利足差加屹度返濟可致候若
及延引候節ハ右約定ニ不拘元利共
皆濟ノ義被申聞候共決テ違背致間
敷候爲後証證人加判依テ如件

年月日

住所身分
借主 氏 名 印
保証人 氏 名 印

何ノ誰殿

タルキハ其判決ア

ルマテ同シク執行

ヲ停止ス(治罪法第

第四百三百九

第十五条)

第百九十九條 禁錮

以上ノ刑ヲ言渡サ

レタル者逃亡シタ

ルキハ現ニ捕ニ就

カサレハ上訴ヲ為

ヲ得ス(治罪法第

三百十條)

○諸物品抵當金子借用證

證(金高十圓毎ニ
一錢印紙貼用)

一人金何百何拾圓也(利子一ヶ月
何程)

此抵當

何品 金何程

右ハ拙者要用ニ付券面ノ金圓致借
用候處確實也返濟ノ儀ハ來ル何
年何月幾日限リ前書ノ利子相加

第百條 拘留

受ケタル者上訴

ヲ為シ又ハ保釈ヲ

求ムルキ其申立

書ハ監獄長ヲ經

テ書記局ニ差出

ス(治罪法第三

百十一條)

第百一條 訴訟

係人又ハ代人非常

ノ変災厄難ニ因リ

無相違皆納可申候萬一其期ニ至

リ致遲滯候ハ右抵當物致賣却

代價ノ多寡ニ不拘相渡可申若何様

異常ノ儀有之候共証人引受本人ニ

代リ致辨償貴殿ハ煩勞相掛申

間敷候爲後日如斯ニ候也

年月日其他書式全上

○証券抵當金子借用ノ証

上訴期限ヲ經過シ

タル場合ニ於テ其

旨ヲ証明スル為メ

喪災厄難ヲ免レタ

ルヨリヨ學常ノ期限

内ニ証拠ヲ申立書

ニ添ヘ書記局ニ差

出セハ書記速ニ其

申立書ヲ對手人ニ

送達ス又對手人ヨ

證

一金何百圓也

(利子一ヶ月)

右ハ別紙何某へ貸金千圓ノ証書ヨ

御預申何圓ニ付一ヶ月何程ノ利息

ヲ以テ來ル何月迄借用申込確實

也万一期限ニ至リ返濟相滞候節

ハ別紙貸金貴殿ヨリ先方へ直々

御掛合御請取可被成候爲後日依

リ三日内ニ答弁書

ヲ差出セハ之ヲ受

取一件書類ト共ニ

上訴ヲ受ク可キ裁

判所ニ送致スル為

メ之ヲ檢事ニ差出

ス(治罪法第三百十

二條及ヒ第三百十

三條)

第一項)

第二百二條 控訴

ハ裁判言渡アリタ

而如件

年月日其他書式

○印紙貼用證文引當田金子

借用證

證

(印紙貼用ハ借

一金何百何拾圓也

右ハ別書何ノ某エ貸金何千圓ノ

証券御預申月々何圓ニ付何程ノ利

ルヨリ五日以内ニ之
レヲ為スヲ得
闕席裁判ヲ受ケタ
ル者ハ刑ノ期満免
除ニ至ルマテ何時
ニテモ故障ヲ為サ
スシテ直ニ控訴ヲ
為スヲ得但治罪
法第三百五十六條
ノ場合ニ於テハ五

子ヲ以テ來ル何月幾日迄借用申出
確實也万一期限ニ至リ返濟不致
候節ハ保証人引受本人ニ代リ致
辨償候共又ハ別紙ノ貸金貴殿
ヨリ先方エ直々御引合御受取可
被成候依之右原借主ノ添書共御
預ケ申置候爲後日証書如件
年月日其他書式全上

日ニ之ヲ為ス

(治罪法第三
百六十六條)

第二百三條 控訴

ヲ為サントスル者
ハ原裁判所ノ書記
局ニ其中立書ヲ差
出ス但其中立書期
限ハ對審裁判ニ付
テハ言渡ヨリ三日
内又闕席裁判ニ付

○秋成引當金子借用之券
證 (金高十山毎二二
錢ノ印紙貼用)

全上
一金何百何拾圓也 (但利子一ヶ月
ニ付何程)
右ハ我等要用ニ付券面ノ金額借用
候處明確也返濟之儀ハ來ル何年月
日秋物成賣拂代價ヲ以テ元利共期
限ニハ無相違可致返却候若淹滯候
ハ証人引受急度可致代償候爲後

日其証如斯候也

年月日其他書式全上

キ故障ノノサルルハ本人又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

控訴ヲ為ス人申立アリタルルキハ書記ヨリ其旨ヲ對手人ニ通知スル

ト左ノ如シ

對手人へ通知スル書式

通知書

當何裁判所ニ住所身分職業氏名カ被告タル何々事件ニ付為シタル裁判言渡ニ對シ控訴ヲ為スヘキ為メ檢事氏名(又ハ民

事原告人其他ヨリ本日午前(右)何時其中立書ヲ差出シタルニ付此旨被告何某(其他ノ者)ニ通知スル者也
明治何年何月何日

某裁判所

書記 氏名 附

檢事ニ通知スルルハ本文中(差出シタルニ付)ノ下ヲ(此段及通知候也)ニ作り而シテ其姓名(何々裁判所檢事氏名殿)ト記ス

第二百四條

訴訟ニ関スル一切ノ書類ハ檢事ヨリ控訴

○正米貸借證文

(石ノ多寡券ニ拘ハラズ一錢印紙ヲ貼用ス五石以下ハ四辨紙ヲ用フ)

裁判所ノ書記局ニ

送致ス(治罪法第三

百六十八條

第三百)

四十條)

第二百五條

檢事

其他訴訟關係人治

罪法第四百十條第

四百十一條第四百

十二條第四百十三

條ノ規則ニ從ヒ終

審裁判言渡ニ對シ

證

一米何百俵 但シ一俵何程入

右ハ我等要用ニ付何月何日迄無利

足ニテ借用候條明正也期限ニ至リ

正米ニテモ代價成トモ御差圖次第

返濟可致候若及淹滯候ハ、不問本

人保証人ヨリ可致返償其証如斯候

也

年月日其他前全上

○利息附穀物貸借之証

記

印紙貼用文ニ準ス

一大麥何俵 但一俵何程入

此利一ヶ月一石ニ付何程

一大豆何俵 但一俵何程入

此利一ヶ月一石ニ付何程

右穀類我等要用ニ付何月幾日迄致

上告ヲ為ス可キ為

ノ裁判言渡ヨリ三

日內ニ其申立アリ

タルヨリ二十四時

內ニ對手人ノ送達

ス(治罪法第三百七

第四百十

申立人其申立ヲ為

シタルヨリ五日內

二上告趣意書ヲ書
記局ニ差出セハ書
記ハ二十四時内ニ
之ヲ對手人ニ送達
ス(治罪法第四
百十七條)
對手人其趣意書ヲ
受取リタルヨリ五
日内ニ答弁書ヲ差
出セハ書記ハ廿四
時内ニ之ヲ上告申

借用候處確正也期限ニ至リ正穀成
共又時價ヲ以テ正金ニテモ御望次
第返却可致候萬一本入方ニテ返濟
及遲延候節ハ保主引請母子共此度
返償可致其証如斯候也
年月日其他書式全上
○講金借用之証
証(金高十圓毎ニ一
錢印紙ヲ貼用ス)

立人ニ送達ス
(治罪法第四
百十八條)

第二百七條 檢事

ヨリ差出ス可キ上
告趣意書又ハ答弁
書若クハ私訴ノ裁
判言渡ニ對シ訴訟
關係人ヨリ差出ス
可キ上告趣意書
又ハ答弁書ハ二通

一金何百何十圓也

此抵當物何々

右ハ(仕方無)講金當何會目掛拙者
落關ニ付請人立會正ニ受取致借用
候處實正也返期ハ前書規定ノ通り
毎年幾度ニ懸返シ元利返金可致候

ヲ差出サシノ一通
ハ大審院ニ差出シ
一通ハ前條ノ手續
キニ從テ對手人ニ
送達ス（治罪法第
四百十九
條）

第二百八條 書記

ハ前條々ニ記シタ
ル期限經過ニシテ
後述ニ訴訟書類

萬一會合ノ度ニ差支候ハ、充置候
抵當物賣價ノ多寡ニ拘ハラズ受人
引受無違滞辨償可致候其証如件
年月日其他前ニ全シ

○雜穀貸借之證

証 （十石以上十石毎ニ
一錢印紙ヲ貼用ス）

一正米何俵 但一俵何程入

此利一ヶ月一石ニ付何程

及ヒ上告書類ヲ檢
事ニ差出ス（治罪法
第四百
廿九條第
一項）

第二百九條 大審

院ニ於テ他裁判所
ノ裁判言渡ヲ破毀シ
其事件ヲ送致シ来
ル時ハ通常手續
ニ從ヒ之ヲ受理ス
其公判及ヒ上告モ

一大麥何俵 但一俵何程入

此利一ヶ月一石ニ付何程

右ノ割合ヲ以來ル何月幾日迄借用
申候期限ニ至正穀成共又ハ時ノ相
場ヲ以代金ナク共御望次第返却可
致候万一當人返濟難成候節ハ請人
引請元利共急度取揃返濟可致候右
証書如件

亦通常ノ手續ト

異ルト無シ治罪

四百廿八条第四百

三十一一条第四百三

十四

第拾三章 違警

罪控訴ノ公判

第二百拾條 檢察

官其他訴訟關係人

治罪法第三百三十

八條第三百三十九

年月日其他書式全上

○宅地借用之証

証 但証券界紙ヲ用フ

一貴殿從來所有ノ地所何郡區何町
村番地間口何間奧行何間此坪幾坪
我等借用住居致候処實正也地價ノ
儀ハ表一坪ニ付何程裏一坪ニ付何
程ノ比例ヲ以總計何錢ノ借地料連

又ホニ從ヒ違礙重載

判所ノ裁判言渡ニ

對シ控訴ヲ為ス為

メ其申立書ヲ原裁

判所ノ書記局ニ差

出シ檢察官ヨリ其

訴訟ニ關スル書類

ヲ當裁判所ノ書記

局ニ送致シ來レハ

書記之ヲ受取り被

月幾日限り無違滯相納可申若一ケ

月ニテモ滯候ハバ請人ヨリ辨納ニ

及ビ右ノ廉ヲ以テ地所引拂可申候

御布告向ハ不及申町内規則ノ廉々

急度相守可申候若地所御入用ノ節

ハ六ヶ月ノ内無異儀退去可致候其

砌一言ノ異儀申間敷為後日借地ノ

証如件

告人ノ住所職業
氏名等ヲ公判件數
録ニ登記シ順次番
号ヲ付ス其他ノ手
續ハ第十二章中ノ
例ニ從フ

(治罪法第三
百四十一條) 控訴
ヲ受ク可キ裁判所
ニ於テハ書記局ヨ

若シ借主外ニ住居シテ其地所ヲ
借ルル片ハ吾住地ノ郡區名番号ヲ
記スヘシ
年月日其他書式全上

○田畑地借用之證

一今般貴殿所持ノ田畑何反畝歩我
等借用申候処實正也地代金ニケ
年何程ニ相定何月何日限ニ相渡可

リ訴訟關係人ニ對
シ呼出狀ヲ發シタ
ル後其裁判ニ取掛
ルナリ
呼出狀ノ送達ト出
廷トノ間少クトモ
二日ノ猶豫ヲ與フ
(治罪法第三百四十
一條第一項第二項)
證人ハ呼出狀ノ送
達ト出廷トノ間少

申候最モ政府御法度時々御布告ノ
趣ハ不及申地所ノ規則等堅相守可
申万一地代金相滞候節ハ引受人ヨ
リ急度返辨可仕候若地所御入用ノ
節ハ熟議ノ上明ケ渡可申候為後日
借地証文依テ如件

年月日其他書式全上
○田畑小作之証券

クトモ一日ノ猶豫

ヲ以テ之ヲ呼出ス

(治罪法第三百四十一條第三項)

第二百十二條 控

訴ノ對手人ハ其裁

判言渡アルマテ何

時ニテモ附帶ノ控

訴ヲ為スヲ得但

公廷ニ於テ直チニ

附帶ノ控訴ヲ申立

何郡何村何番地

一田畑何反何畝步

此代金何百圓

右ハ當何年何月ヨリ來ル何年何月

迄借受耕作拙者所有ノ田畑ニテ貴

殿方エ質物ニ差入候ニ付我等致小

作候處實正也然ル上ハ一ケ年米何

石收税區入費等相勤作益何程毎年

タルハハ書記其旨

ヲ錄取シ之ヲ申立

人ニ讀聞カセ判事

及ヒ申立人ト共ニ

署名捺印ス

(治罪法第三

第二百十三條 控

訴ニ係ル事件ハ輕

罪ノ裁判ヲ為スニ

付キ定メタル規則

何月幾日限無相違皆納可仕候萬一

期限ニ至遲滯候ハ加判人ヨリ相

辨可申候為後證依而如件

年月日其他書式全上

○田土質地之證

記 (金拾圓每ニ一錢)

印紙ヲ貼用ス

一金何百何拾圓也

此質地

則チ第十二章手續キニ從フ
檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ
ノ允許ヲ得ルニ非
サレハ新ナル證人
又ハ始審ニ於テ陳
述シタル證人ヲ呼
出スルヲ得ス
(治罪法第三
百四十三條)

何縣下何國何郡何村
第何番字何々
一上下田土何反 但第何号地券
証表ノ通ナリ
此地價金何拾何円何錢
地租 壹ヶ年何石
作德米 何石何斗何外何合
右ハ今般金子要用ニ付前書ノ田土
別紙地券狀相添質地ハ差入書面ノ
金圓借用候處確實也年季ノ儀ハ當
明治何年何月ヨリ來ル何年何月迄

第二百十三條 公

廷ノ弁論終リタル
片左ノ如原裁判
ヲ認可スルノ旨言
渡ヲ為シ又ハ原裁
判ヲ取消シ更ニ裁
判言渡ヲ為ス但被
告人ノミ控訴ヲ為
シタルハ原裁判ヨ
リ重キ刑ヲ言渡サ

滿何ヶ年期ニ相定其際地徳ハ貴殿
方エ收納地組地入費等ハ可被相勤
候若期限ニ至リ金圓返却難致候節
ハ地券讓リ渡ノ事ニ其裏面ハ書入
奉願典入ノ地可致交付候為後日其
証如斯候也

何縣下何國何郡何村
何番地
地主 氏 名 印
年月日

ス 治罪法第三百四十四條第一

項第

私訴ニ付テノ控訴

ノ裁判ハ通常民事

ノ規則ニ從フ

治罪法第三百四十四條第三項

全上 氏名 印

組合 氏名 印

何町村

何ノ誰殿

前書之通相違無之候也

右村戸長 氏名 印

原裁判ヲ認可スル言渡書ノ式

裁判言渡書

何裁判所ハ住所身分職業氏名カ何々事件ニ付明治何年月日

其違警罪裁判所ニ於テ言渡サレタル裁判ハ何所ニ於テ云々ノ事ヲ為シタル者也トシ刑法第何条ヲ適用シ拘留何日ニ處セラレタレ凡其實云々ノ場合ニ至ラサルヲ以テ判決ノ不當ナル旨控訴ヲ為スニ依リ之ヲ受理シ茲ニ檢事氏名ノ陳述被告人氏名ノ答弁ヲ聽キ證據物件及ヒ始審ノ書類ヲ檢閱スルニ被告人氏名ハ何所ニ於テ明治何年何月何日云々ノ事ヲ為シタルハ何証憑ニ依リ明瞭ナリ之ニ依テ觀レハ其違警罪裁判所ニ於テ刑法第何条ニ云々トアルニ照シ拘留何日ニ処スル旨ノ言渡ヲ為シタルハ適當ノ裁判ナリトス依テ其裁判言渡ヲ認可シ控訴ノ裁判費用金何田何十錢ハ被告氏名ヨリ納完スルヲ命ス

新撰書式文格

右終審トシテ檢事氏名ノ出廷ニテ裁判言渡ヲ為ス者也

明治何年何月何日

某裁判所

判事 氏名印
書記 氏名印

原裁判ヲ取消シ更ニ為ス裁判言渡書ノ式

裁判言渡書

某裁判所ハ住所身分職業氏名儀何所ニ於テ云々ノ罪ヲ犯シタルモノトシ明治何年月日何違警罪裁判所ニ於テ之ヲ刑法第何條ニ照シ拘留何日ニ処セラレタルモ何々ニ付其裁判不當ナル

旨ノ控訴ヲ受理シ爰ニ檢事氏名及ヒ被告人氏名ノ陳述ヲ聽キ始
審書類ヲ檢閱スル処何々ノ證據ニ依テ之ヲ觀ルニ被告人氏名ハ
明治何年月日某所ニ於テ云々ノ事件ヲ為シタル明々タリト雖其
所為タル何々ニ止ルモノトス依テ之ヲ法律ニ照スニ刑法第何條
ニ云々トアルヲ適用シ被告氏名ヲ料料金何十錢ニ処ス可キモノ
ト判定ス因テ某違警罪裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ヲ取消
シ更ニ氏名ヲ料料金何十錢ニ処シ且ツ裁判費用金若干ヲ納完ス可
キヲ命ス
右終審トシテ檢事氏名ノ出廷ニテ裁判言渡ヲ為スモノ也
明治何年何月何日

新撰書式文格

二百四七

某裁判所

判事氏名印
書記氏名印

第二百十五條 呼

出ヲ受ケタル被告
人民事擔當人又ハ
其代人出廷セサル
并ハ檢察官及ヒ
民事原告人ノ請
求スル所ヲ聽キ關

○耕地質入之證

(拾田毎ニ一錢
印紙ヲ貼用ス)

一金何百何拾圓也

一上下田何反何畝步

此地利米何程

分米何程

席裁判ヲ為ス
民事原告人出廷セ
サル并亦同シ

治罪法第三
百三十一條

第二百十六條 関

席裁判ヲ為ス手
続ハ治罪法第三
百三十一條以下ノ規
則即チ第十三章ニ
從フ但其裁判ヲ受

右書面ノ田地質物ニ差入當年号何
年何月ヨリ來ル何年何月迄何ケ年
之間金借申候處實正也然ル上ハ年
限中地所並ニ地券狀共貴殿方へ
御渡申置候間御手作成懸作リ
成御勝手ニ御所分可被成候就テ
ハ府縣廳へハ貴殿ヨリ御届御年貢
諸役御勤可被成万一限月ニ至リ金

ケタル者故障ヲ為ノ期限ハ本人又ハ其住所ニ裁判言渡書ヲ送達アリタルヨリ三日内ナリトス

治罪法第三百四十五條 訴

訟關係人又ハ其代人非常ノ災厄

子返却相滞候ハ、地券狀ハ其係御渡可申候間名前改正御願立永々御所持可被成証人加判爲後日証文依テ如件

年月日其他書式全上

○田畑貨物之証

拾田毎ニ一錢印紙ヲ貼用ス

一金何圓也

難ニ因リ控訴期限ヲ經過シタルヲテ証明スル爲メ其証

拠ヲ申立書ニ添ハ原裁判所ノ書記局

ニ差出シタル申書

記ニ於テ對手人ノ

答弁書及ヒ一件書

類ヲ併セ之ヲ檢察

官ニ差出ス

何縣下何國何郡何町何番地 字何々

一上下田畑何反何畝步

但分米何程別紙圖面之通

右ノ田畑我等所有ノ処金子要用ニ

付何年何月ヨリ何年何月限リ貨物

ニ差入券面ノ金圓借用候処實正也

然ル上八年期中地所交付地租區入

治罪法第三百十二
條同第三百十三條

第二百十八條 前

條ノ書類ヲ檢察官
ヨリ其裁判所ノ書
記ニ送致シ來レハ
會記局ニ於テ檢事
ノ意見ヲ聽キ先ツ
其控訴ヲ受理ス可
キヤ否ヲ判決ス若
シ受理ス可キ者ト

費ハ貴殿方ノ可為義務ノ処協議ノ

上此方ニ於テ致直作小作年貢并ニ

諸費用共我等方ヨリ相勤可申候勿

論期月ニ至リ作徳金差入候儀及元

金返濟等遲滯候ハ、右田圃券証ノ

姓名改正奉願地所可致通付候為後

日其証如斯ニ候也

年月日其他書式全上

判決シタル片ハ書

記ヨリ其旨ニ訴訟

關係人ニ通知シ通

常ノ手續キニ從ヒ

本案ノ裁判ヲ為ス

又受理ス可カラサ

ル者ト判決シタル

片ハ即時ニ裁判執

行ヲ為サシム

治罪法第三百
四十條第三百

○田地質流之証

何區何町何番地

字何々

十四毎ニ一錢
印紙ヲ貼用ス

一 中上下田何反何畝步

此代價何圓也

右田地質物ニ差入去何年何月金何

百圓借用候處及満期正金如數難相

整候ニ付定約ノ通地所并ニ地券狀

共其流質ニ致貴殿へ相渡候処相

十三 条

第二百十九條 控

訴ノ裁判ニ對シ檢
事其他訴訟關係人
ヨリ上告ヲ為ス并
ハ放免ノ言渡ヲ除
クノ外其執行ヲ停
止ス

止ス

治罪法第三百
十六條第四百
十五條

違無之候然ル上ハ於此田地子孫ニ
至ル迄聊申分無御座候條貴殿ヨリ
御願ノ上名前御書入永世御所持可
被成候依テ流質引渡証文如件

年月日

何郡何町何番地

讓主 氏 名 印

組合惣代 氏 名 印

全上 氏 名 印

保証人

治罪法ニ定メタル

刑事ノ控訴乃チ第

十二章第十三章ニ

掲クル控訴ハ當分

ノ内之ヲ為スヲ

得ス

明治十四年太政
官第七十四号布
告

第十四章 重罪

何ノ誰殿
○田地書入之証

記 全上

一金何百圓也

此書入

何縣下何國何郡何町
第何番地字

一吐下田何反何畝步

但シ地券狀之通

公判其陪席及書

記ノ手續

第二百二十條 重

罪裁判所ニ於テハ

左ノ條件ニ因テ公

訴ヲ受理ス

一豫審判事又ハ輕

罪裁判所會議高

ノ判決ニ因リ其

事件ヲ移スノ言

印割

此代金何圓也

右ハ今般要用ノ儀有之書面ノ地所

別紙圖面ノ通書入右金圓正ニ借用

申處實正也返濟ノ儀ハ本年何月ヨ

リ向何年何月限リ米何割何相添元

利共此度返却可致候若其期ニ至致

淹滯候ハ券面ノ地實地證文ニ書

換地券證相添地所交付候欵保証人

渡

二控訴裁判所又ハ

大審院ノ判決ニ

因リ其事件ヲ移

スノ言渡

治罪法第三

百七十二條

第二百二十一条 重

罪裁判所ニ移スノ

言渡確定シタル片

ハ左ノ區別ニ從ヒ

方ニテ致擔當母金并ニ利子共無相

違可致償濟ノ約証如斯ニ候也

年月日其他書式全上

前書之通相違無之候也

右村戶長

名印

耕地賣渡之証

何郡何町字何々

十四每二錢

一 中田何反何畝步

第何号地券

印紙貼用

公訴狀ヲ作ル

控訴裁判所ニ於テ

重罪裁判所ヲ開ク

中ハ檢事長公訴狀

ヲ作ル

始審裁判所ニ於テ

重罪裁判所ヲ開ク

中ハ檢事長公訴狀

ヲ作リ又ハ重罪裁

判所檢察官ノ職務

此地代金何千圓也

何郡何町字何々

一 下田何反何畝步 第何号地券

此地代金何百圓也

惣合金何千何百圓也

右之耕地ニ口前書之代價ニテ賣渡

申候地稅御上納并區入費共貴殿方

ニテ出金被致永久御所持可被成候

右耕地ニ付聊故障申出候者在之候

ヲ行フ可キ檢事ヲ

シテ之ヲ作ラシム

(治罪法第三

百七十三條)

第二百二十二條 公

訴狀ニハ左ノ條件

ヲ記載ス

一 被告事件ノ始末

及ヒ加重減輕ノ

模様

一 被告人ノ氏名年

ハ、我等請人引受決テ御煩勞相係
申間敷候為後日賣渡証如件

年月日其他書式全上

○ 田畑賣渡之証

何國何郡何町字何々

(畑バカリナレバ
畑賣渡ト書ス)

一 上田何反何畝步

賣主氏名

一 中下畑何反何畝步

買主氏名

第何号地券証 右惣代價合金何千何百何圓也

齡身分職業住所

出生ノ地

三豫審ニ於テ集取

シタル原被ノ證

憑

四罪名法律ノ正條

及ヒ重罪裁判所

ニ移スノ言渡ノ

概畧

治罪法第三
百七十四條

右之畑田畑或ハ畑田畑ニ口口從來何ノ誰主賣所有

ノ處券面之金圓ヲ以何ノ誰主買賣

遞候處確實也右畑田畑ニ付何人ヨリ故

障申出候共保証人引受速ニ可致糸

解候為後日賣渡証書如斯候也

年月日其他書式全上

○地所書入之証

証

全上

全上

第二百二十三條公

訴狀ニハ重罪裁判

所ニ移スノ言渡書

ニ記載シタルヨリ

以外ノ事件又ハ被

告人ヲ記載セス

治罪法第三
百七十五條

第二百二十四條重

罪裁判所ニ移スノ

言渡書ニ同テ被

新撰書式文格

一金何百圓也

右ハ何區郡何町村何番地間口何間裏巾

何間與行何間此坪何百坪地價金何

程借主何某所有ノ地所書入ニ致シ

當何月ヨリ何年何月限リ書面ノ金

圓致借用候尤地租區入費等ハ借主

方ニテ仕拂利子ノ儀ハ連月金何程

宛無違貸主方ハ相渡シ可申候期月

告人ニ對シ附帶ニ
非サル數箇ノ重罪
ヲ記載シタル場合
ニ於テ檢察官ハ
各別ニ公訴狀ヲ作
リタル上ニテ各別
ニ辯論ヲ為スコトヲ
裁判所長ニ請求
スルコトアリ
裁判所長ハ同一ノ

ニ至リ皆濟不行届候郎ハ地所引渡
候共又ハ証人引受金圓ニテ辨償致
候共貸主ノ好次第ニ取計可申答ニ
取極申候
但家作建物ハ本文ニ籠リ不申候
右納定相違無之事
年月日
其他書式全上
右証書ハ貸主ニ渡シ左ノ約定書

公訴狀ニ附帶ニ非
サル數箇ノ重罪ヲ
記載シタル場合ニ
於テ其職權ヲ以テ
各別ニ辯論ヲ為サ
シムルコトアリ又數
箇ノ公訴狀ニ記載
シタル事件ニ付キ
同時ニ弁論ヲ為サ
シムルコトモアリ

ハ戸長役場へ留置ノ法ナリ但シ
役場ニテ証書ト約定書トニ割印
スルコト置ノ如シ
何郡何村何番地
貸主 氏 名印
借主 氏 名印
保証 氏 名印
何郡何村何番地借主何某所持ノ券
金何百圓ノ地所當何月ヨリ向何年

所異書式各

(治罪法第三) 百七十六條

第二百二十五條 重

罪裁判所書記ノ職

務ハ問廳ス可キ裁

判所ノ書記之ヲ行

フ (治罪法第) 七十五條

第二百二十六條 第

二百二十條ニ依リ

重罪ノ公訴ヲ受理

シタル後書記ハ被

何月何日迄書入ニ致シ金何百圓致
借用候期月返濟相滞候ハ右地所
保証人誰方へ引取元金取揃皆濟致
納定ノ事

戸長 氏 名印

○屋敷地賣渡之証

何町村何番地

印紙全上

一屋敷地面何反何畝歩

代金何百圓也

右ノ通永代賣渡候上ハ地稅御上納

其外區入費共一切貴殿方ヨリ御出

金可被成候且地内ニ私所持ノ建家

壹軒有之候間住居中ハ借地代金一

ケ月ニ金何圓宛連月廿八日限リ貴

殿方へ相渡可申候尤地所御入用ノ

節ハ建家取崩可申又ハ地代金相滞

告人ノ人數ニ從ヒ

公訴狀ノ謄本ヲ作

リ被告人出廷ヨリ

少クモ五日前ニ

通常ノ手續ニ從ヒ

之ヲ各被告人ニ送

達ス (治罪法第三) 百七十七條

第二百二十七條 陪

席判事ニ充テラレ

タル判事ハ重罪裁

判所長ヨリ委任ヲ
 受ケタル場合ニ於
 テ公訴狀ノ送達ア
 リタルヨリ二十四
 時ノ後書記ノ立會
 ニテ被告人ヲ別室
 ニ呼入レ被告事件
 ニ付訊問ヲ為シ且
 兼護人ヲ選任シタ
 リヤ否ヲ問ヒ若シ

其他何様ノ儀出來共請人方ニテ引
 受爲相濟可申候爲後日依テ如件

年月日其他書式全上

○地所賣買ノ手續得意

地所賣買讓渡シ并ニ代更リ其外
 實地流込等ニテ持主ノ代リタル
 時ハ地券ノ裡ヘ書式(本文)スル如
 ク相認メ書替ヲ乞フベシ賣買ノ

選任セサルトキハ
 其旨ヲ裁判所長ニ
 報告シ所長ハ裁判
 々屬ノ代言中ヨリ
 之ヲ選任ス

(治罪法第三
 百七十八條
 治罪法第七十
 三條第二項)

第二百二十七條 書
 記ハ前條ノ場合ニ
 於テ左ノ調書ヲ作

何區何町何番地

賣買ノ節代金請取ノ証文之アル
 トモ地券申受サレハ買主ニ地所
 所有ノ權ナシ若シ書替ヲ申受ス
 シテ發覺スル時ハ罰金トシテ証

印稅(地券書替)一倍ヲ科ス

○建物賣渡之証

(印紙全上)

リ兼護人ヲ撰任ス
ルニ付其式ヲ履行
シタルヲ記載シ
陪席判事及ヒ被
告人ト共ニ署名
捺印ス

(治罪法第百
八十余一項)

被告人ヲ訊問シタル調書式
何某云々一件調書

凡葺ニ階造建家 壹ヶ所

附属有無

間口 何間 坪數 何坪

奥行 何間

代金何圓也

右別紙圖面之通我等所持ノ建家
前書ノ代價ヲ以今般貴殿へ賣渡シ

明治何年何月何日何重罪裁判所長判事何某ヨリ委任ヲ受ケ
タル陪席判事氏名ハ某重罪裁判所ニ於テ書記氏名立會ニテ云
々事件ノ被告人氏名ヲ訊問スルノ左ノ如シ
問 其方ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地ハ何々ナルヤ
答 自分氏名ハ何年齢ハ何年何月職業ハ何住所ハ何所出生ノ
地ハ某所ナリ

問 豫審判事 (又ハ輕罪裁判所會議局○控訴裁判ノ公訴狀ニ
或ハ檢事大審院ノ判決及ヒ檢事長)

依ルニ其方明治何月日某所ニ於テ云々ノ罪ヲ犯シタルトノ
ナリ右事件ニ付其方豫審ノ審問ヲ受ケタル中ノ調書ニ
記載シタル答弁ハ更ニ異議ナキヤ如何

答 何々、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 問 自己ノ辨護ヲ為サシムル為メ弁護人ヲ選任シタリヤ
 答 自分ノ選任ニ相違ナシ

又ハ被告ノ代理人中ヨリ何某ヲ選任セサルニ付裁判所長ニ於テ當裁
 此ノ弁護人ノ撰任スルニ付テハ治罪法第百七十八條ノ式
 ヲ履行シタリ
 右被告人氏名ニ讀聞カセタル処氏名ニ於テ其記事ノ相違ナク且
 ツ異議アラサルヲ申立ツ依テ本官等左ニ署名捺印スルモノ
 ナリ

明治何年何月何日
 某重罪裁判所ニ於テ

判事氏名
 書記氏名
 被告人氏名

第二百二十九條 辨

護人ハ治罪法第
 百七十八條ノ処分
 アリタル後被告人
 ト接見スルヲ得
 又書記局ニ於テ一
 切ノ訴訟書類ヲ

金高正ニ致落手候此建家ニ付他ヨ
 リ故障等無之候萬一異論申者有之
 候得者私共急度引受聊モ御迷惑相
 懸申間敷候為後日如件

年月日其他書式全上

閱讀シ且之ヲ抄寫
セシテヲ乞フ片ハ
書面ヲ以テ其旨ヲ
書記ニ申出ツ
書記ハ其書類ヲ閱
讀又ハ抄寫セシム
治罪法第三百八
二條第一項第二項
第二百三十條 辨
護人ニ非サル者ヨ
リ裁判言渡以前ニ

○建物賣買讓渡規則

第一條

我所有ノ地ノ建物ヲ賣渡シ又ハ
讓渡シテ為サント欲スル者ハ賣
渡(讓渡)證文ト圖面トニ戸長ノ
奥印割印ヲ受ク可シ又借地ニ建
テ在ル建物ノ(賣渡)(讓渡)證文
ニハ其地主ニ請ヒ其地主ヨリ貸

被告人ト接見スル
トヲ願出タル片ハ
被告人現ニ拘留ヲ
受クル地ノ裁判所
長ニ於テ之ヲ許否
ス
治罪法第三百八
十二條第三項
第二百三十一條 檢
察官及ヒ民事原
告人ノ請求ニ因リ

地タルトテ証スルノ(賣渡)證文ヲ受ケ
タル上ニテ戸長ノ(賣渡)證文ヲ受
ク可シ

但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ
其所屬官廳ニ請ヒテ其質地タ
ルトテ証スルノ(賣渡)證文ヲ受ク可
シ

(但書)十年四月追加

書記局ニ於テ證人ヲ呼出スニハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫ヲ興ヘ其証人ノ氏名目録ハ閣廷ヨリ一日前ニ書記ニ於テ之ヲ被告人ニ送達ス

治罪法第三百八十五條第三百八十五

第二條

一 建物ノ買請讓請ヲ為サント欲スル者ハ自身又ハ其代人建物ノ有ル地ノ戸長役場ニ至リ建物書入質記載帳ヲ見合シタル上其(賣渡)讓渡ノ證文ヲ受取り然シテ後ニ戸長役場ニ至リ戸長又ハ副戸長ノ面前ニテ何郡區何町村何番地

条

第二百三十二條

告人ノ請求ニ因リ呼出ス所ノ證人ニ付テモ亦前条ニ同シ但氏名目録ハ書記ヨリ檢察官ニ送致シ民事ニ付呼出シタル證人ノ氏名目録ハ民事原告人

ノ建物ヲ何某ヨリ(買請)(讓受)タル者ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日并ニ苗字名ヲ記シ實印ヲ押スヘシ

(八年四月改正)

第三條

一 戸長役場ニ於テ建物(賣渡)(讓渡)證文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ是

ニ送達ス

(治罪法第三百八十三條第三百八十五條)

第二百三十三條 豫

備陪席判事トナリ

タル判事ハ陪席判

事差支アル中ハ職

務ヲ行フ

(治罪法第三百八十七條)

第二百三十四條 陪

亦建物出入賃記載帳ニ記入スル

一及ヒ證文ニ奥書シ圖面ニ割印

スル一ヲ建物書入賃規則第五條

ニ準シ公證ヲ興ルノ手續ヲ為ス

ヘシ

第四條

一書入賃ト成リタル建物ヲ(買請)

讓受)人ニ於テ其實物所在ノ權

席判事及ヒ書記ハ

裁判長檢察官ト共

ニ公廷ニ出席シ裁

判長ヨリ被告人ノ

氏名年齢等ヲ問フ

(治罪法第三百八十八條)

第二百三十五條 書

記ハ公廷ニ於テ證

人ノ氏名ヲ呼立テ

其呼立ニ應シタル

ヲ拋棄スル時ハ書入賃ノ金ノ償却ヲ引受クルニ及バス

第五條

一第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ

受ケタル相續人ハ前戸主ヨリ讓

受ケタル建物所有ノ權ヲ拋棄ス

ト雖モ書入賃ノ金數ノ償却ヲ引

受ク可シ

証人ハ之ヲ扣席ニ
退カシメ陳述ヲ為
スニ當リ順次ニ之
ヲ呼込ム

(治罪法第三
百八十九條)

第二百三十六條 書

記ハ裁判長ノ命
ニ依リ公訴狀ヲ朗
讀シ而シテ裁判長
被告人ヲ訊問シ証

○公債証書賣渡之証

一新シ公債証券

一金何程也

内

何圓 何印 自何ノ何番 何通
至何ノ何番

此賣渡代價金何程

右ハ私所持ノ証券ニ候處今般示談

憑ヲ取調フ

(治罪法第三百九十
條ヨリ第三百九十
四條第一項ニ至ル
及ヒ第三百九十五
條)

第二百三十七條 陪

席判事更ニ被告人
及ヒ証人ヲ訊問シ
又ハ証人ヲシテ他
ノ証人ト對質セシ
ムルヲ必要ナリ

ノ上貴殿へ賣渡シ書面ノ代金正ニ
請取申候然ル上ハ証券裏面へ名前
御書加へ可被成候尤モ書加へ御願
中ハ別紙ノ委任狀ヲ差出シ置キ御
書換相濟候テ後右委任狀引換証券
相渡可申候也

年月日

住所身分

何ノ誰殿

氏名印

トスル片ハ裁判長ニ告ケ自ラ訊問ヲ為シ又ハ對質セシム

治罪法第二百九十一條第二項第三百九十

第二百三十八條 治罪法第三百條ノ弁論中ニ於テ弁護人ヲ改選シ及ヒ弁論

○公債証書書換ニ係ル委任狀書式

一 拙者ノ部理代人トシテ左ノ權限ノ事ヲ貴殿へ相任セ代理相頼候事

一 公債証書金高何千圓名前書入

御檢印願ノ事
右代理委任狀如件

ヲ停止シタル片ハ書記其旨ヲ公判始末書ニ記載ス但公判始末書ノ式ハ第十二章ニ從フ而シテ重罪公判ニ關スル一切ノ訴訟手續ヲ登記ス

治罪法第三百八十九條第二項
第二百三十九條檢

年月日 住所身分 氏名 印

○公債証書御買上願

一 公債証書何百何十圓也

右ハ去ル何年何月家禄何石奉還候處既ニ本年何月正金何百何十圓何

十何錢奉拜受候且又本年何月右公債証書御買上願得共今般公布ニ

基キ御買上相成度此段奉願候也

察官及ヒ被告人ハ
無論中ニ發見シタ
ル條件ニ付キ豫審
ヲ求ムルヲアリ

裁判所ニ於テ其請
求ヲ認可シタル片
ハ重罪裁判所ヲ開
キタル裁判所ノ判
事一名ヲシテ豫審
ヲ為シ且其報告書

年月日
住所身分
氏名印

地方長官殿宛

○公債証書類賣買証文

一新
公債証 何通 何印
至何ノ何番

此金高何程也

(此賣渡代價金高百四
ニ付通貨何十四ノ割)

ヲ差出サシム

本條ノ場合ニ於テ
豫審ノ請求ヲ受テ
タル片ハ通常豫審
ノ手續ニ從テ其取
調ヲ為ス

治罪法第三
百九十八條

第二百四十條
中公訴狀ニ記載シ
タル事件ニ附帶セ

此代金何程也

右ハ今般貴殿へ賣渡シ前書之代金
正ニ請取候處實正也且ツ名前書替
ノ儀ハ貴殿差圖ニ任セ何時ニテモ
出願スベキハ勿論示後此儀ニ付少
シモ故障無之候仍テ証人相立差入
申一札如件

住所身分

サレ他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アル片ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ヲ判事一名ヲシテ豫審ヲ為サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判ス

年月日

賣主氏

名 印

証人氏

名 印

何ノ誰殿

○建家借家証書

(明治十二年改正)

記

(証券界紙ヲ用ユ)

一市中制法ノ趣謹テ相守且不審ノ者決テ留置申問敷候事
一區町入費ノ儀ハ其都度無相違出

治罪法第百九十六條

第二百四十一條 裁判長ハ治罪法第百條ニ定メタル手續ノ終リタル後公訴ニ付并論ノ終結シタルヲ言渡ス

治罪法第百九十六條

第二百四十二條 辯論終結ノ言渡アリ

金可仕方一相滞候得ハ證人へ引受速ニ辨償可致候事
一今般其許殿所有ノ何區何町何番地ノ建家ヲ宿料一ヶ月金何圓何錢ノ約定ニテ借用候處實正也右宿料ハ毎月幾日限相渡可申候其
他條約左ノ通
一年限ヲ期セス借用候儀ニ付便宜

タル中ハ檢察官法
律適用ノ為メ其意
見ヲ陳述ス
被告人及ヒ弁護人
ハ檢察官ノ意見其
當ヲ得サルコトヲ弁
論ス

(治罪法第三
百九十八條)

第二百四十三條前
條ノ辯論ヲ終リタ

ニヨリ轉移致候節ハ幾日以前ニ
其趣申出其月ノ宿料ハ明渡候當
日迄ノ日割ヲ以可相渡候事
一右建家所有主ニ於テ臨時入用ノ
儀出来候得ハ其旨被申聞候日ヨ
リ幾日間ニ轉移致明渡シ可申候
万一差向他ノ家へ轉移相成難キ
時ハ速ニ証人方へ悉ク引取可申

ル後民事原告人ハ
私訴ニ付キ其讀
スル所ヲ陳述ス
被告人兼護人及ヒ
民事擔當人其答
弁ヲ為ス
檢察官私訴ニ付其
意見ヲ陳述ス
裁判所ニ於テハ私
訴ノ弁論ヲ延期ス

候尤宿料ハ前條ノ通可相渡自然
宿料金當人ヨリ差出難キ節ハ証
人ヨリ償却可致候事
但本人旅行ノ節ハ豫テ証人へ
委任致置可申ニ付留主中タリ
共本文ノ通証人へ引取可申事
一借用中家屋掃除為行届前道路
ノ掃除日常心掛可仕候事

ルアリ但開廳
前之ヲ判決ス

(治罪法第三
百九十九條)

第二百四十四條 被

告事件重罪ニシテ

且證憑充分ナルハ

ハ法律ニ從ヒ刑ノ

言渡ヲ為ス

又治罪法第二百二

十四條第三以下ノ

一道路ノ障碍隣家ノ妨害ニ相成候

様ノ所為ハ決而致間敷候事

右之通成約仕候條相違無之依テ證

書差入置候也

年月日其他書式公工上

○家屋敷質入之証

證

(金拾四每ニ一錢
印紙ヲ貼用ス)

一金何百圓也

場合ニ於テハ免訴

ノ言渡ヲ為シ且被

告人ヲ放免ス

(治罪法第

四百條)

第二百四十五條 犯

罪ノ證憑充分ナ

ラサルハ無罪ノ

言渡ヲ為シ且被告

人ヲ放免ス

又原告人被告ノ

右ハ金子入用ノ儀有之我等所持左

ノ家屋敷何年何月限質物ニ差入借

用申處實正也然ル上ハ家屋敷地所

地券面共年限中相渡御年貢金諸役

費殿方ニテ御勤可被成候萬一約定

期限ニ至リ不受戻候ハ一言ノ申

分ナク御立會ノ上直ニ致糶賣其

代金ヲ以返濟可致ハ勿論ニ候得共

要償ニ付キ治罪法

第三百九十九条ノ

規則ニ從ヒ裁判言

渡ヲ為ス

(治罪法第

第四百一条)

第二百四十六條關

席裁判ヲ為ス并書

記ハ裁判長ノ命ニ

依リ公訴狀及ヒ豫

審書類ヲ朗讀ス

若不足相立候節ハ如何程ニテモ不

足金可及御返辨候尤質物家屋敷ニ

付他ヨリ故障無之依之為後日質物

証券如件

何町何番地

一建家 間口何間 奥行何間

(但シ平家或ハ二階造)

(但シ南隣ハ何ノ誰北隣

ハ何ノ誰家屋敷也)

但シ造作ノ有無ヲ記入スベシ造

作トハ庇天井敷鴨居椽板床ノ間

押入棚等ヲ云フ

年月日其他書式全上

○地所質入之証券

(十田毎ニ一錢印

紙ヲ貼用スベシ)

一金何百何拾圓也

何郡區何町何番地

又ハ其住所ニ送達

ス

第二百四十七條檢

事其他訴訟關係人

ハ治罪法第四百三

条第四百六條ニ從

ヒ裁判言渡ニ對シ

上告ヲ為ス為メ其

申立書ヲ呈供シタ

ル片書記ノ取扱手

続ハ第二百三條以

下ニ同シ

(治罪法第四百三

条第四百六條

第十五章 再

間口 何間何尺

裏口 何間

奥行 何間

此坪數何坪何合

(此地價金何百田券狀賣通)

年限中貸主へ相渡置申候

右ハ當何月ヨリ(何ヶ年カ或ハ何ヶ月カ)限リ地

所賃入致シ書面ノ金額致借用候依

テ右年限中ハ地所貴殿方へ引取地

代ハ勿論取立地租其外區入費等

審ノ訴

第二百七十五條 再

審ノ訴ハ左ノ場合

ニ於テ重罪輕罪ノ

刑ノ言渡ニ對シ被

告人ノ利益ノ為メ

之ヲ為スヲ得但

裁判確定ノ後ニ非

サレハ之ヲ為ス

得ス

惣テ相勤可被申候若期限ニ至リ返

金相滞候ハハ早速券狀御改正相願

可申為後日賃入証書如件

但家作建具等ハ本文ニ籠リ不申

候

年月日其書式今上

明治十年一月廿九日

太政官第十二号布告

○地所賃入年限心得

刑罰書式各

(治罪法第四) 百三十九條
一人ヲ殺シタル罪
ニ付キ刑ノ言渡
アリタル後其言
渡ノ日ニ當リ殺
サレタリト認メ
ラレシ者現ニ生
存シ又ハ犯罪前
既ニ死去シタル
ノ確証アリタル

地所ヲ質入ニ致シ候節ハ地券ヲモ
相渡シ可申其年限ノ儀ハ三ケ年ニ
限ルベシ尤モ三ケ年以下期限取極
メ候儀ハ可為勝手且年限取極メ候
廉ハ判然証書面ニ記載致シ置ヘシ
但シ書入ハ地券ヲ渡ニ及ハズ
○質入地券預リ証
(証券界紙)
証

井
二同一ノ事件ニ付
共犯ニ非スシテ
別ニ刑ノ言渡ヲ
受ケタル者アリ
タル井
三犯罪アル以前ニ
作リタル公正ノ
證書ヲ以テ當時
其場所ニ在ラサ

何郡何町何番地
借主 氏 名
一 地券 一通
間口 何間何尺
奥行 何間何尺
此坪數何坪
券金何百圓也
(耕地畑總テ此例ニ準ス)
右何某所有ノ地所質入地ニ受取金

ルコトヲ證明シタル片

四被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑

ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルト

キ

五公正ノ証書ヲ以テ訴訟書類ニ偽

造又ハ錯誤アル

何圓用達候ニ付前書券狀書通年季

中借主何某方ヨリ預リ申候返金ノ

節無相違相戻可申候為後日如件

年月日其他書式全上

○何船貨物之証書

(十四年毎ニ一紙 印紙ヲ貼用ス)

一 金何百圓也

一 我等所持ノ何石積何船舟道具共

トキ
一 証明シタル

第二百四十九條 再

審ノ訴ヲ為スコトヲ

得可キ者左ノ如シ

一 刑ノ言渡ヲ為シ

タル裁判所ノ檢

察官

二 刑ノ言渡ヲ為シ

タル裁判所ノ管

有姿ノ欠貨物ニ差入右金子借用

申所實正也然ル上ハ利足何程宛

毎月ノ末無相違相渡尤公役諸費ハ

此方ヨリ相勤可申方一限月ニ至リ

金子返濟相滞候ハ一言ノ無申分

右船并ニ舟道具共相渡御帳簿名

前切替可申候為後日船賃依テ如

件